

# 霞ヶ浦の水ガメ化、 新たな水源開発は必要か

嶋津 暉之

(水源開発問題全国連絡会)

## 霞ヶ浦開発の諸問題

- 霞ヶ浦開発とは？
- 霞ヶ浦開発がもたらしたものの
- 霞ヶ浦開発の水はどこまで必要だったのか。

水あまりの時代へ

四つの水源開発事業と茨城県民の経済負担

## 霞ヶ浦開発とは？

### 日本で湖面積が第一と第二位の湖沼

	湖面積	貯水量
琵琶湖	670 km <sup>2</sup>	275億m <sup>3</sup>
霞ヶ浦	220 km <sup>2</sup>	8.5億m <sup>3</sup>

琵琶湖も霞ヶ浦も水ガメ化の事業が行われてきた。

(水ガメ化: 自然の湖沼を人工貯水池のように水位を上下できるようにして水源を開発し、同時に湖沼周辺の治水対策を行う。)

# 湖沼の水ガメ化事業

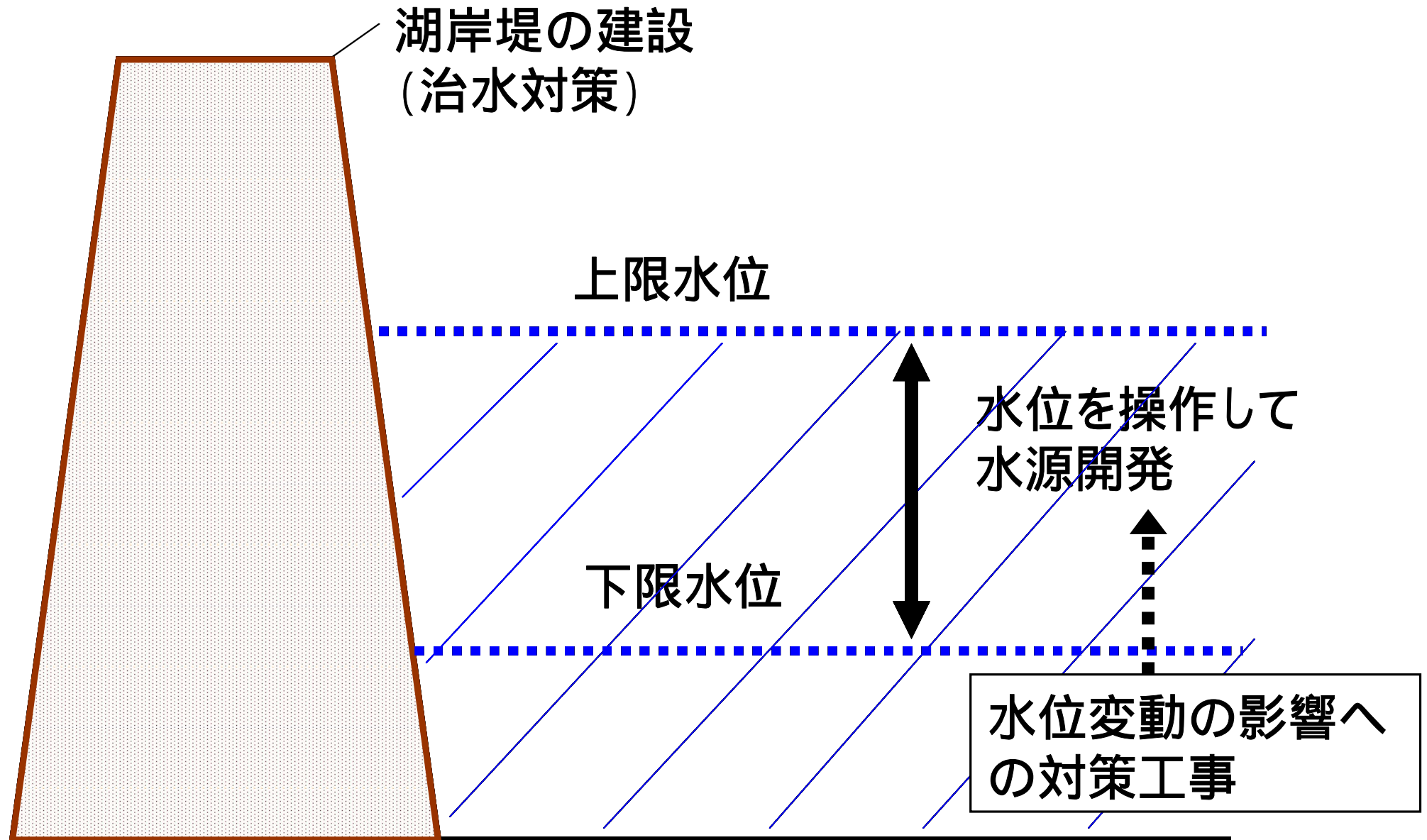
## 琵琶湖総合開発 1972～96年度

・治水・水源開発事業	3,513億円
・地域開発事業	15,542億円
計	19,065億円

## 霞ヶ浦開発 1971～95年度

・霞ヶ浦開発事業	2,864億円
・霞ヶ浦水源地域整備事業	5,131億円
計	7,995億円

# 湖沼の水ガメ化



# 霞ヶ浦開発の目的

## 利水

YP ± 0.0mからYP + 1.3mの間で水位調整し、  
42.92m<sup>3</sup>/秒の都市用水および農業用水を開発する。

	茨城県	東京都	千葉県	計
水道用水	2.50	1.50	1.56	5.56
工業用水	16.60	---	1.20	17.80
農業用水	18.13	---	1.43	19.56
合計	37.23	1.50	4.19	42.92

(単位 m<sup>3</sup> / 秒)

## 治水

堤防天端高YP + 3.0mの湖岸堤を建設して、湖周辺の洪水を防止する。

〔注〕 YP (江戸川の基準面) : 東京湾平均海面 - 0.8403m

# 霞ヶ浦開発事業

常陸川水門改築

湖岸堤の新改築、既設堤護岸補強

利根川連絡水路

(霞ヶ浦導水事業の利根導水路と共同)

流入河川工事

補償工事(湖水位の変動が影響する揚水施設、排水施設、漁港等の施設の新改築)

総事業費 2,864億円

# 琵琶湖総合開発の治水・水源開発事業

## 治水対策

- ・湖岸堤・管理用道路の建設
- ・内水排除施設等を新築または改築 等

## 水源開発事業

- ・瀬田川洗堰の改築と操作による水位操作
- ・湖周辺施設の水位低下対策

(大阪府内及び兵庫県内の都市用水 毎秒40m<sup>3</sup>の開発)



# 霞ヶ浦水源地地域整備事業

		事業費(億円)
水質保全対策	農業集落排水処理施設	569.4
	流入河川浄化事業	6.6
	霞ヶ浦浄化事業	43.5
	下水道事業	3,510.5
	畜産汚水処理施設整備事業	92.7
	し尿処理施設整備事業	135.4
	ごみ処理施設整備事業	124.3
影響緩和対策	土地改良事業	371.6
	河川改修事業	139.5
	港湾整備事業	0.4
	水産資源保護培養事業	7.3
	水産物流通施設整備事業	0.1
	自然公園施設整備事業	3.1
	簡易水道施設整備事業	126.9
合計		5,131.2

## 霞ヶ浦開発の経過

1963年 常陸川水門完成

1969年 鹿島工業用水送水開始

1971年 利根川河口堰完成

霞ヶ浦開発の工事開始

常陸川水門ほぼ閉鎖

1973年 常陸川水門全閉

1995年 霞ヶ浦開発完了

# 利根川河口堰と常陸川水門



# 利根川河口堰と常陸川水門

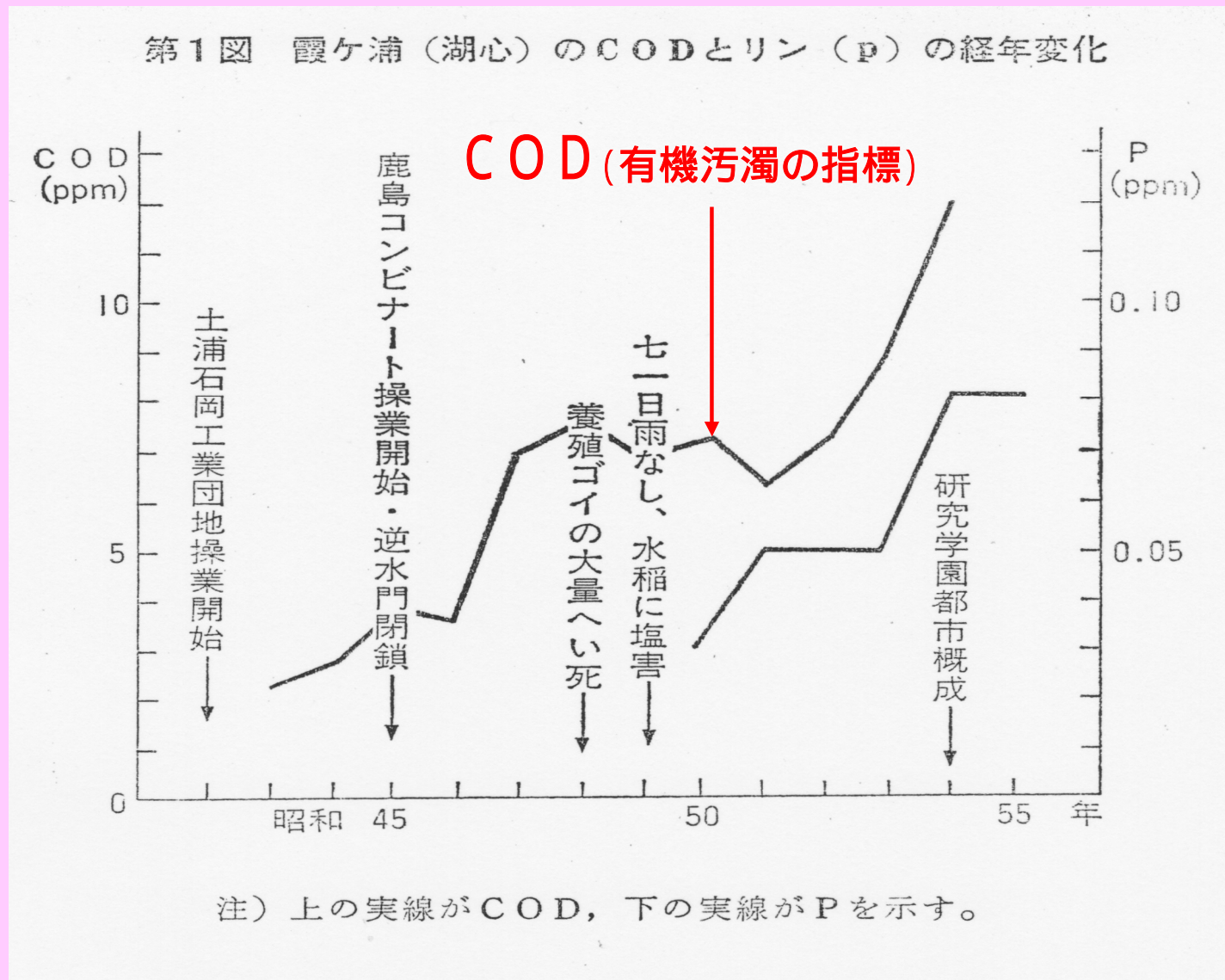


常陸利根川(外浪逆浦)

常陸利根川(常陸川)

利根川

# 常陸川水門の閉鎖による急速な水質悪化



(木村龍夫「霞ヶ浦の水質汚染と用水開発」 技術と人間 1981年3月 より)



# 霞ヶ浦開発の反対運動

## 鹿島工水反対闘争 1973年10月5日

### 鹿島工水力で決着



### 代執行へ抗戦 4時間

### 開発完成へ一直線

### 死の湖に歯止めなく

霞ヶ浦の開発は、鹿島工水力発電所が完成すれば、いよいよ完成の途程に入ると見られる。しかし、反対運動は、いまだ激しさを増している。特に、代執行への抗戦は、4時間続いた。この間、関係トリアが陥落し、関係職員に抱えられ、引きずられるようにして強制退去させられる土地所有者の眞田さん(右)と支援の関氏さん(左)の姿が、関係トリアの陥落を象徴している。関係トリアの陥落は、関係職員に抱えられ、引きずられるようにして強制退去させられる土地所有者の眞田さん(右)と支援の関氏さん(左)の姿が、関係トリアの陥落を象徴している。

関係トリアが陥落。関係職員に抱えられ、引きずられるようにして強制退去させられる土地所有者の眞田さん(右)と支援の関氏さん(左)の姿が、関係トリアの陥落を象徴している。

### 18ヶ月に2年

阻止 刑事責任 共闘

霞ヶ浦の開発は、鹿島工水力発電所が完成すれば、いよいよ完成の途程に入ると見られる。しかし、反対運動は、いまだ激しさを増している。特に、代執行への抗戦は、4時間続いた。この間、関係トリアが陥落し、関係職員に抱えられ、引きずられるようにして強制退去させられる土地所有者の眞田さん(右)と支援の関氏さん(左)の姿が、関係トリアの陥落を象徴している。

鹿島臨海工業地帯



発行所 茨城新聞社  
 北戸市北見町1番15号 〒310  
 電話(本局) 029-221-4  
 ©茨城新聞社 1973

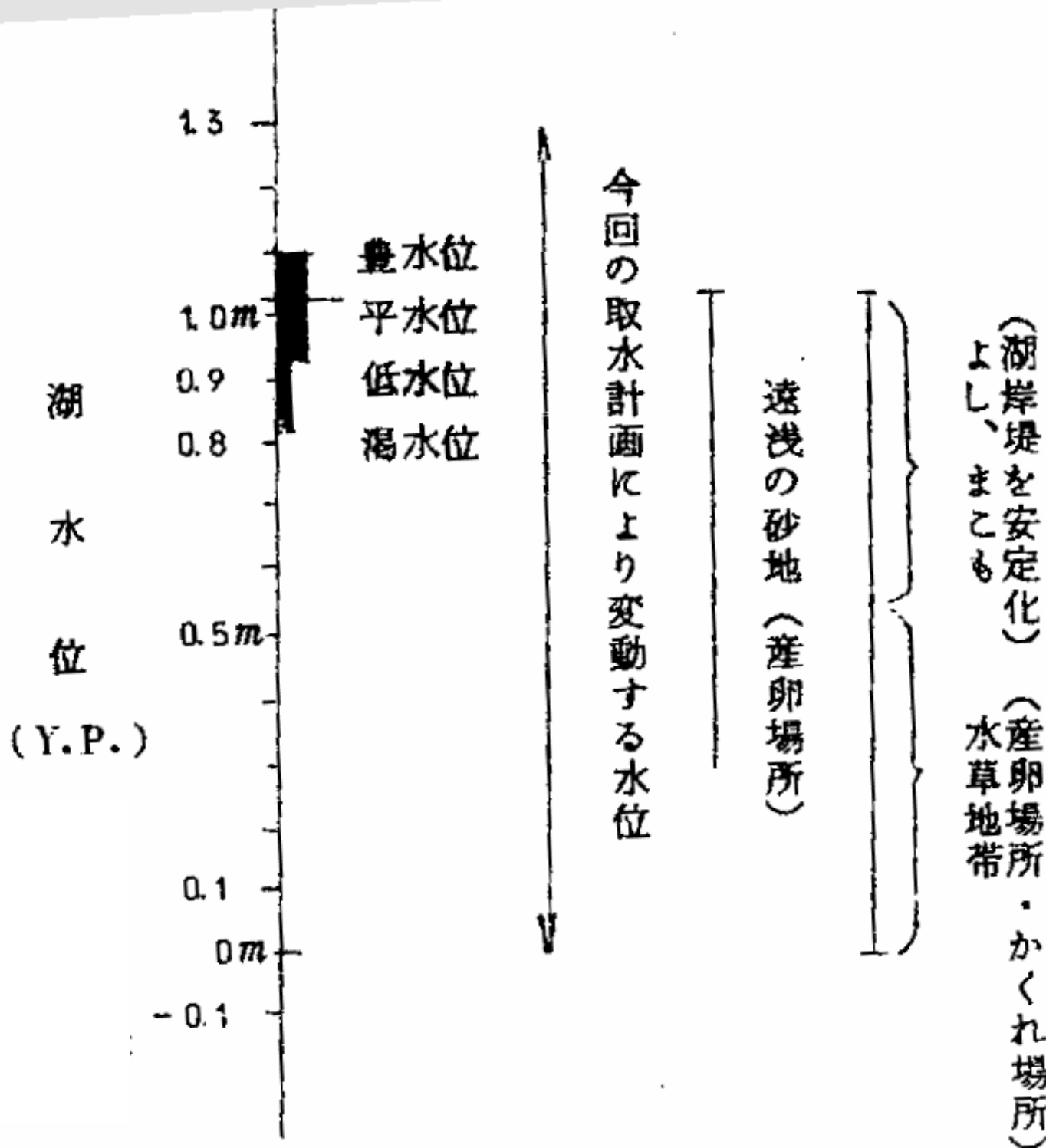
建設分譲住宅 県下最大の住宅地  
 住宅地造成販売 分譲地です。  
**国土産業**  
 本社(209) 0021-6031  
 土浦支店 0298(22) 918193

12ページ  
 1. 国土産業  
 2. 国土産業  
 3. 国土産業  
 4. 国土産業  
 5. 国土産業  
 6. 国土産業  
 7. 国土産業  
 8. 国土産業  
 9. 国土産業  
 10. 国土産業  
 11. 国土産業  
 12. 国土産業

# 鹿島工水反対闘争に加わった 中西準子氏(当時、東大助手)の指摘

- 鹿島の用水型工場は水をふんだんに使っていて、使用水量の大幅削減が可能であるから、新しい鹿島工業用水道は必要性がない。
- 霞ヶ浦開発による湖水位の変動は霞ヶ浦の自然に壊滅的なダメージを与える。
- 水ガメ化によって、汽水性魚類の生息が困難になり、湖水の汚濁が激化していく。

# 中西準子氏の指摘



霞ヶ浦開発による湖水位の変動は霞ヶ浦の自然に壊滅的なダメージを与える。

(注) YP (江戸川の基準面) : 東京湾平均海面 - 0.8403m



霞ヶ浦開発がもたらしたもの

完全水ガメ化による水質の悪化、  
汽水性生物の喪失

湖岸堤建設による水生植物群落の破壊

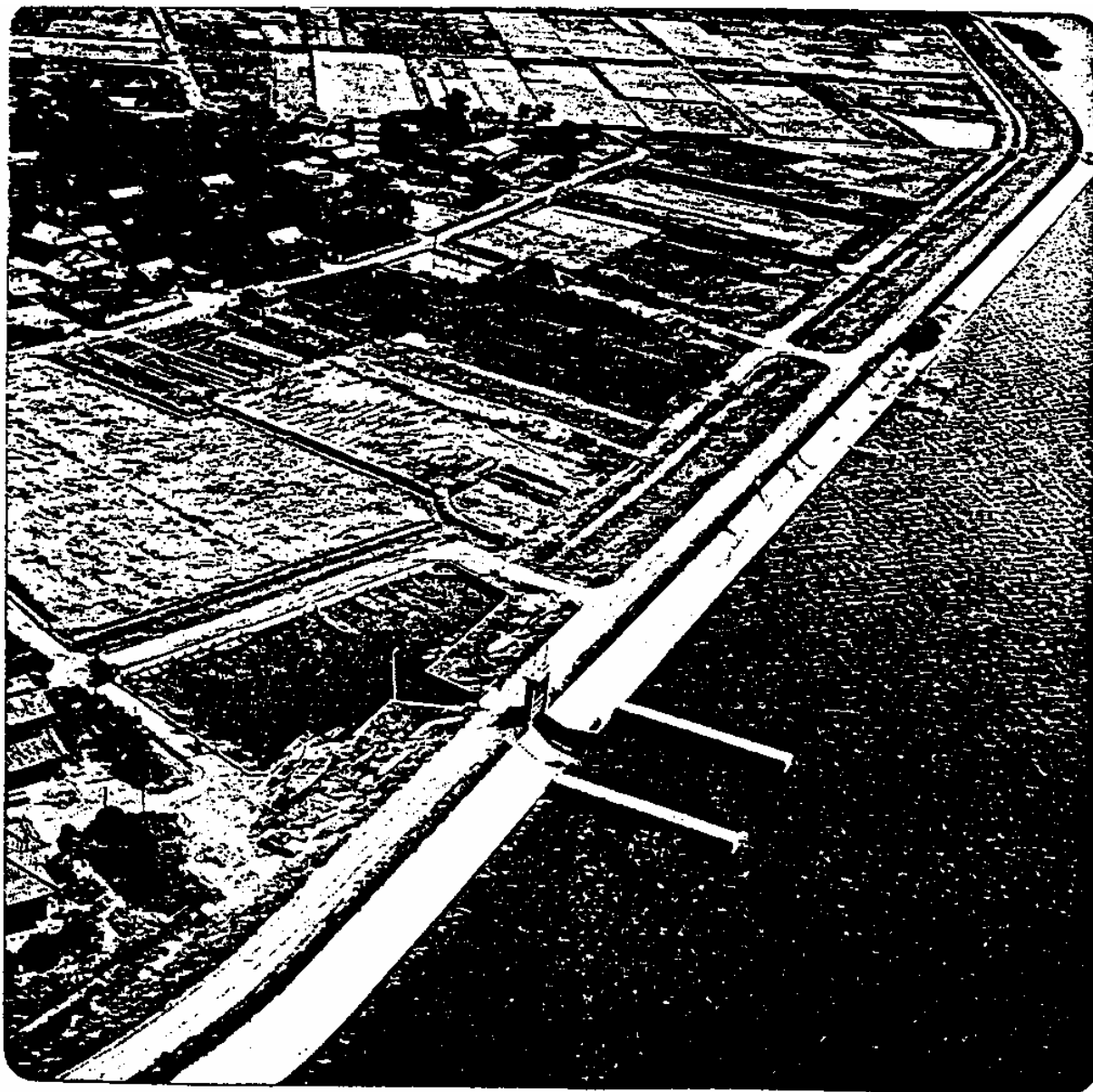
湖水位の人為的な変動による水生植物  
の衰退

ヨシ群落を守る連絡会「ヨシと水と人とのふれあい」



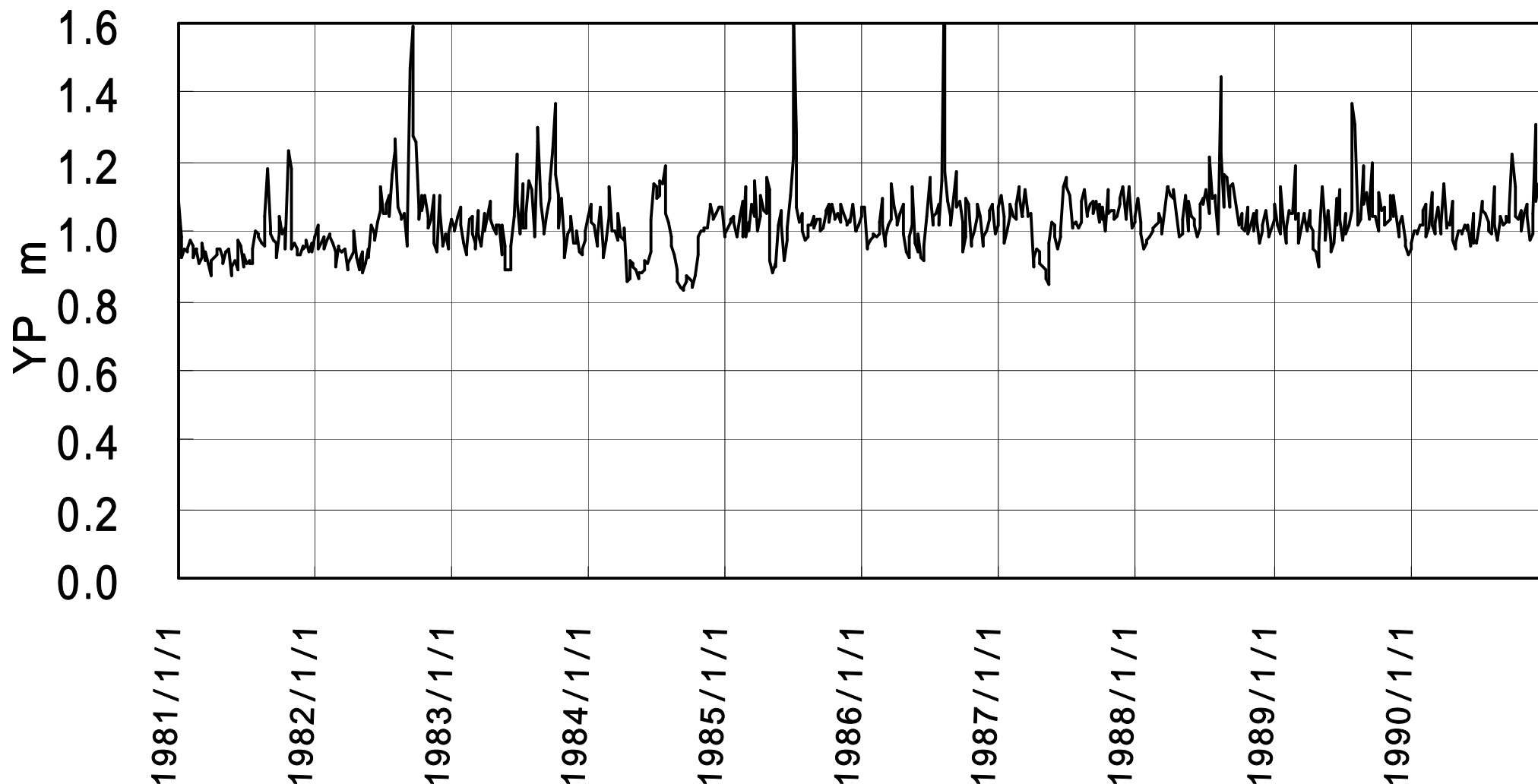
沼地葦原の鳥（原図）左上よりチュウヒ、バン、カイツブリ、（近くに浮巢あり）、セツカ（巢あり）、ヒクイナ、中央オオヨシキリ（巢卵あり）、カワセミ、ヨシゴイ（♂、幼鳥および遠景）、サンカノゴイ 15)より

## かつての湖沼



霞ヶ浦の湖岸堤  
(ヨシ原を破壊した後)

霞ヶ浦開発が終了するまでは霞ヶ浦の水位はYP 1.0mをベースとして降雨による小さな変動を繰り返してきた。

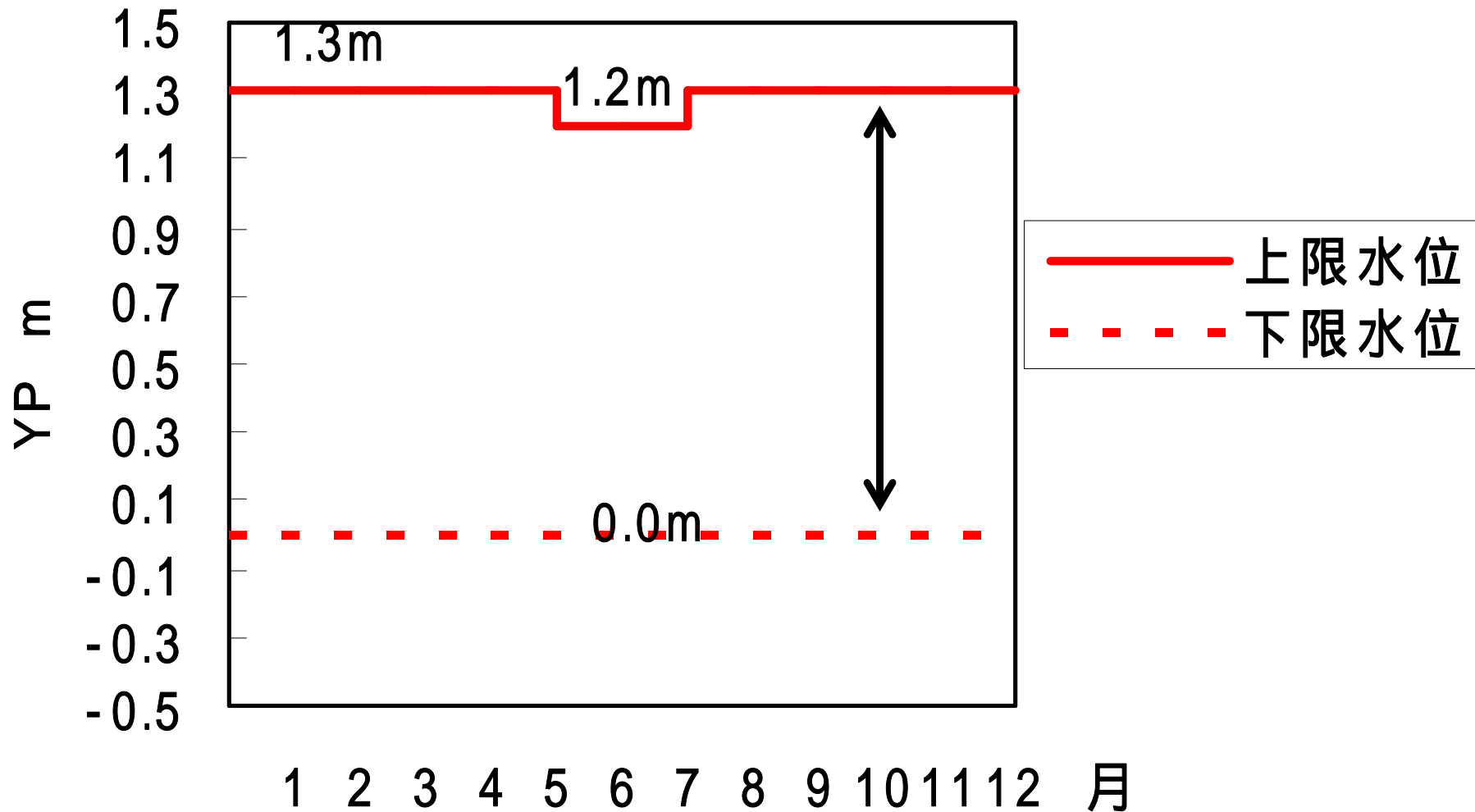


霞ヶ浦の実績水位 (1981 ~ 1990年)

(出典:国土交通省の資料)

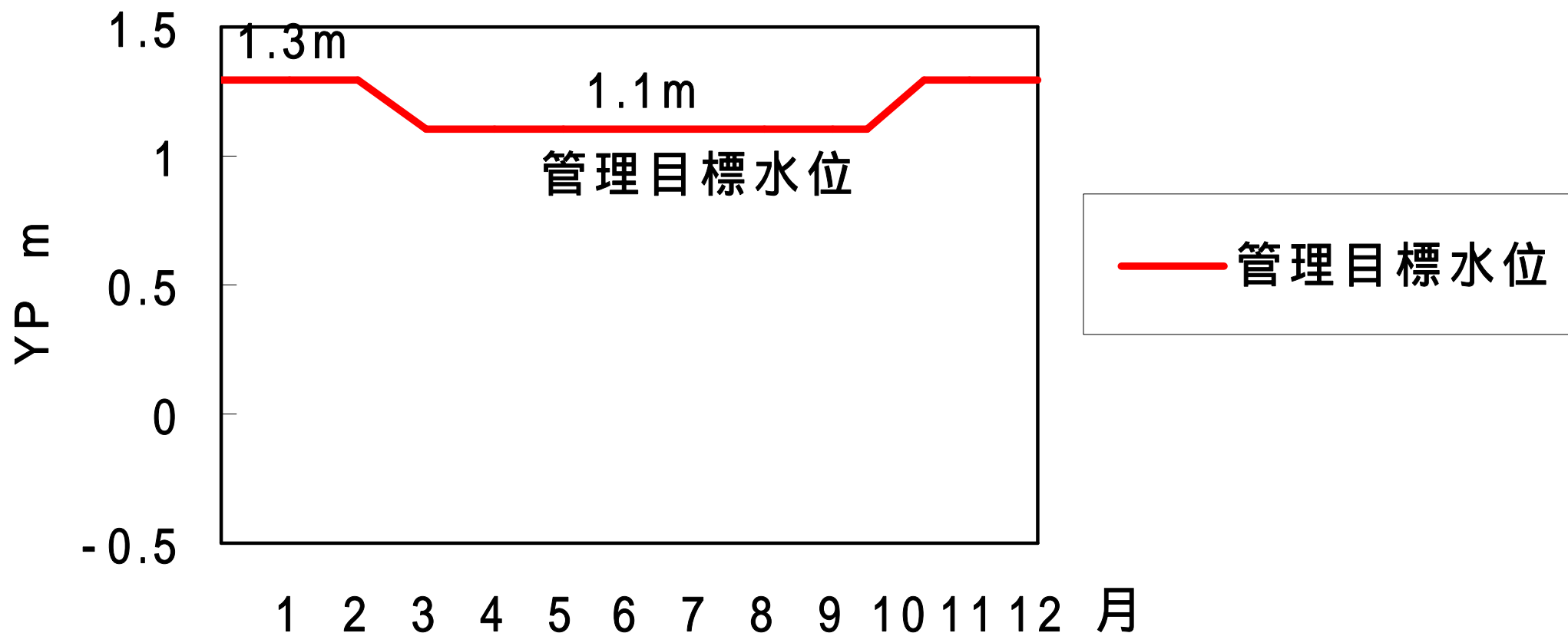
[注] YP (江戸川の基準面) : 東京湾平均海面 - 0.8403m

# 霞ヶ浦開発計画の水位操作



霞ヶ浦開発による水位操作は最大で1.3mに及ぶものであるが、水余りにより、そのような操作は行われていない。

## 開発事業終了後、1996～2000年の4年間行われた水位操作



冬場の水位を20cm上昇させる水位操作により、アサザの群落  
が1/10に減少 2000年11月から水位操作を中止

しかし、2004年度から水位運用試験という名目で、冬期の一部  
期間で1.3mへの水位上昇が行われてきている。

# 霞ヶ浦開発の水はどこまで必要だったのか。

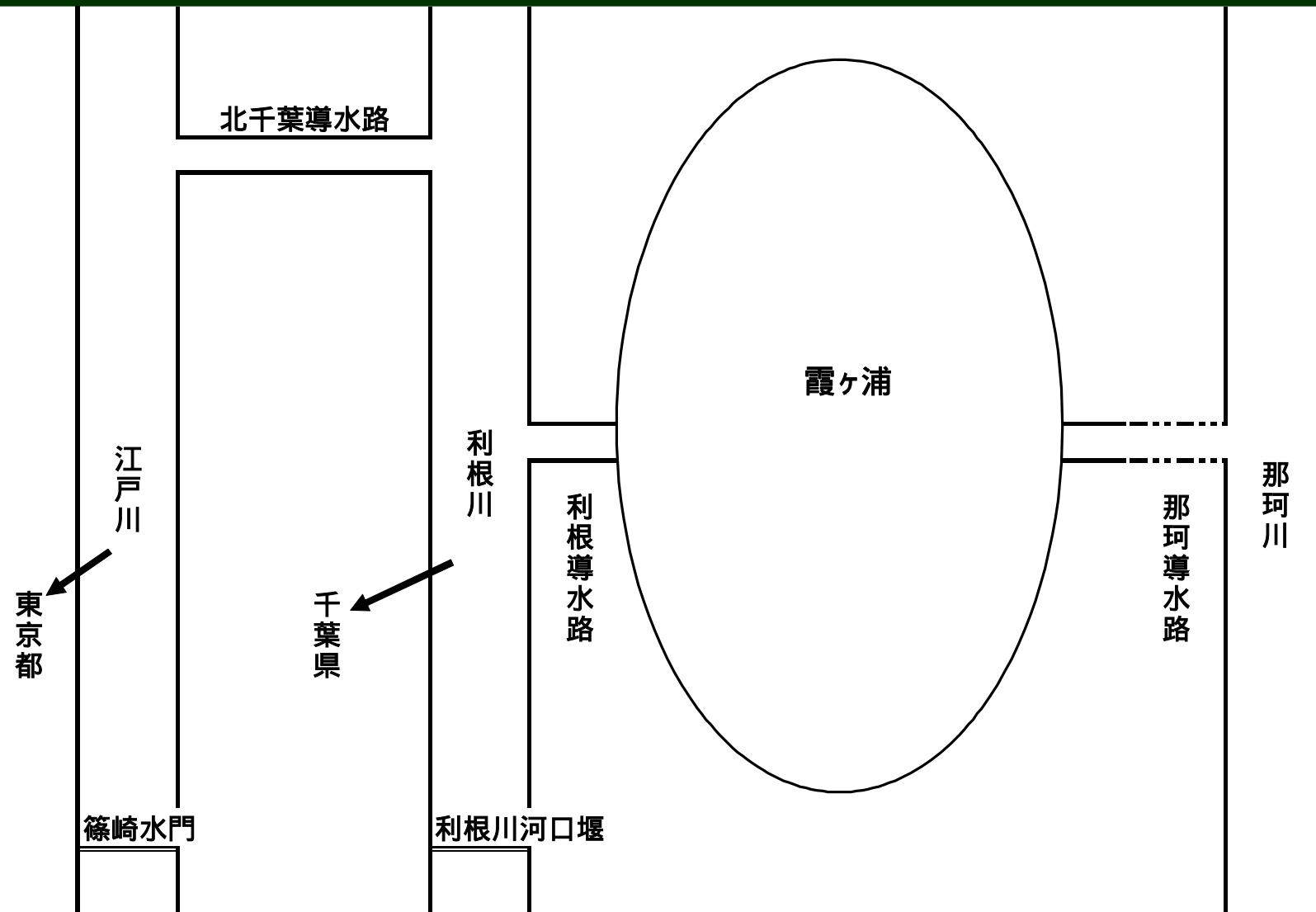
			開発水量
茨城県	工業用水	鹿島工業用水	13.86
		県西・県南広域	
	水道用水	鹿行広域	5.24
		県西・県南広域	
	農業用水	霞ヶ浦用水	8.848
		石岡台地用水	4.997
		鹿島南部用水	3.015
神之池用水・羽賀沼・小野川		1.266	
小計		37.23	
東京都	水道用水	1.5	
千葉県	工業用水	1.2	
	水道用水	1.56	
	農業用水	1.43	
	小計	4.19	
合計			42.916

霞ヶ浦開発により、約43m<sup>3</sup>/秒という大量の水源が開発されたが、それはどこまでの必要性があったのか。

〔注1〕 工業・水道用水の開発水量は最大、農業用水の開発水量はかんがい期平均を示す。

〔注2〕 茨城県の工業用水と水道用水の保有水源は工業用水から水道への水利権一部転用を行った数字を示す。

霞ヶ浦開発の水は、利根導水路を通して  
東京都、千葉県に導水されることになっている。



〔注〕霞ヶ浦導水事業の利根導水路は霞ヶ浦開発の関係では利根川連絡水路といわれる。



### 利根導水路

# 試験通水 今年も中止

## 地元漁協の反対で 計画に大幅遅れも

建設省が進めている霞ヶ浦導水路の霞ヶ浦と利根川を結ぶ「利根導水路」の試験通水が、昨年に続き今年も中止された。十五日までには霞ヶ浦から送られる水で利根川の水量が順化することを懸念する地元漁協の強い反対があるためで、生簀養への影響調査が目的の試験通水は計三回行われる予定だが、九五年九月の実施以降はストップしている。一方、霞ヶ浦と那珂川を結ぶ那珂導水路も地元漁協の反対で取水口の工事が着工できず、全体の完成は当初計画の二〇〇〇年度から大幅に遅れる見通しだ。



試験通水が中止された利根川左岸・東町の利根機場

同省霞ヶ浦導水路工事事務所にすると、利根導水路は霞ヶ浦に面する東町十須田と利根川左岸の同町結佐を結ぶ長さ約二・六キロメートルで、八九年に完成した。試験通水は今年六月十三日まで八日間に行われていた。計画では、前半四日間、利根川から霞ヶ浦へ、後半四日間は逆方向へ最大で毎秒十トンを送水、水質や生簀養への影響を調べるとになっていた。そのため、同事務所は今夏から波崎町の波崎共栄漁協など県内五漁協と、千葉県側の九箇協

に対して計画を通知、同意を求めている。しかし、前回九五年九月に霞ヶ浦から利根川に試験通水した後、利根川側の水流で大量のシジミが死んでいるのが見つかり、波崎共栄漁協などが同事務所に対して試験通水とシジミの大量死との因果関係を調べるよう要請していた。ただ、シジミの大量死については、試験通水後の台風による増水と水の濁りが原因とする専門家の意見もあっていまだに結論は出ておらず、千葉県側の二箇協

が「試験通水との因果関係が明らかでない以上、試験の再開には同意できない」と反対したため、同工事事務所などが各漁協に対して中止を促した。利根川からは、さき江戸川と結んで首都圏に飲料水などを供給する北千蔵導水路の建設が進められており、来年度中には完成、二〇〇〇年四月から本格的に運用される予定だ。利根導水路には、利根川から江戸川に送水する量と同程度の水を霞ヶ浦から利根川に送ることにより利根川の流量を補う役目もある。そのため同事務所では、同年までに試験通水を終了し、環境に影響がないことを実証したいとしている。

# 開かずの水門 「利根導水路」 (利根川連絡水路)

# 開かずの水門「利根導水路」 (利根川連絡水路)

運用実績(1995年9月の試験通水以降、現在まで)

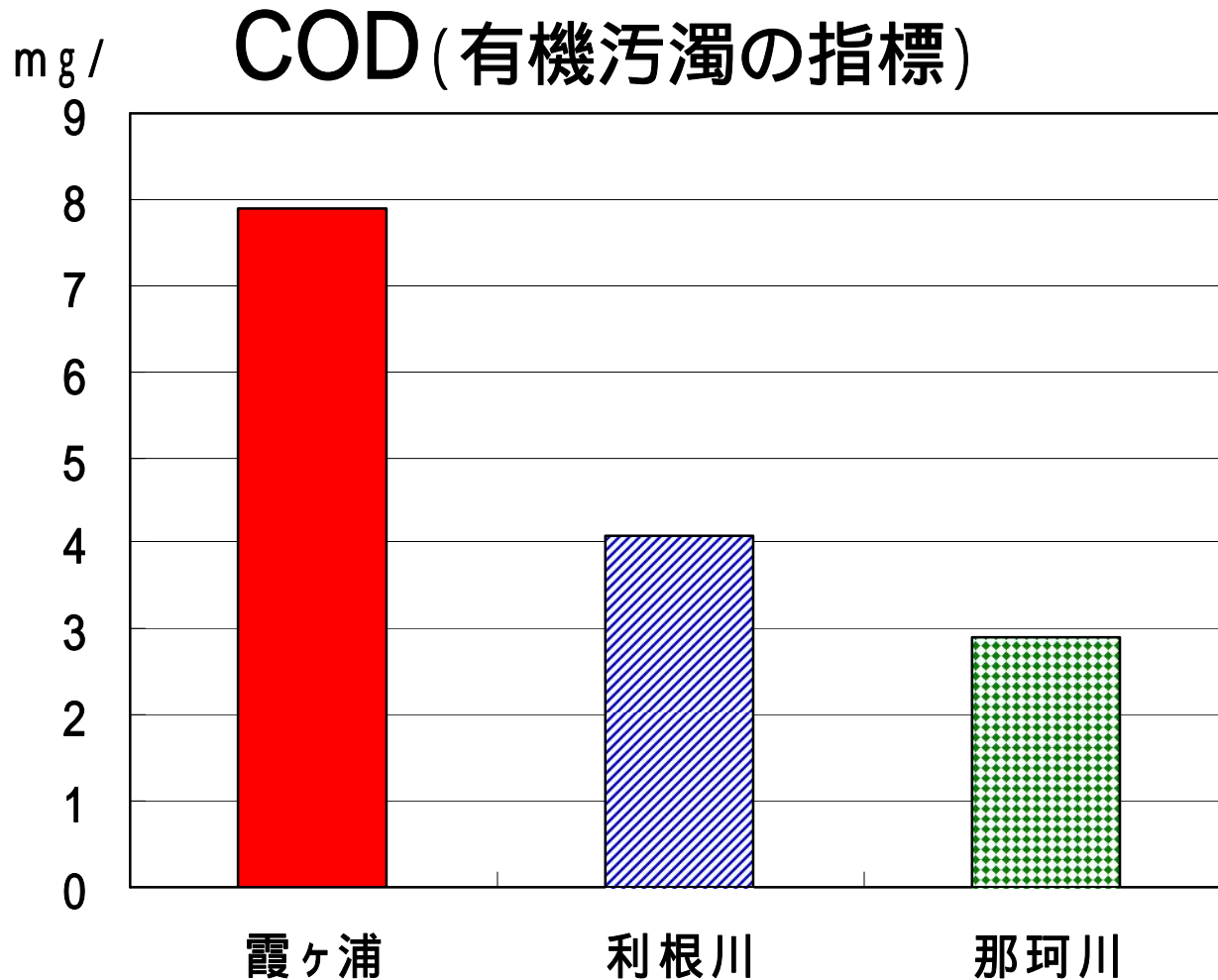
利根導水路としての実績(国土交通省)

ゼロ

利根川連絡水路としての実績(水資源機構)

2007年4月25～29日の5日間のみ

利根川と比べて、霞ヶ浦の水はひどく汚濁しているので、利根川に導水することができない。



汚れた霞ヶ浦の水を  
 湯水時に那珂川や  
 利根川に補給すれ  
 ば、那珂川、利根川  
 が大きなダメージを  
 受けることは必至

## 霞ヶ浦・利根川・那珂川の水質比較 (2004年度平均)

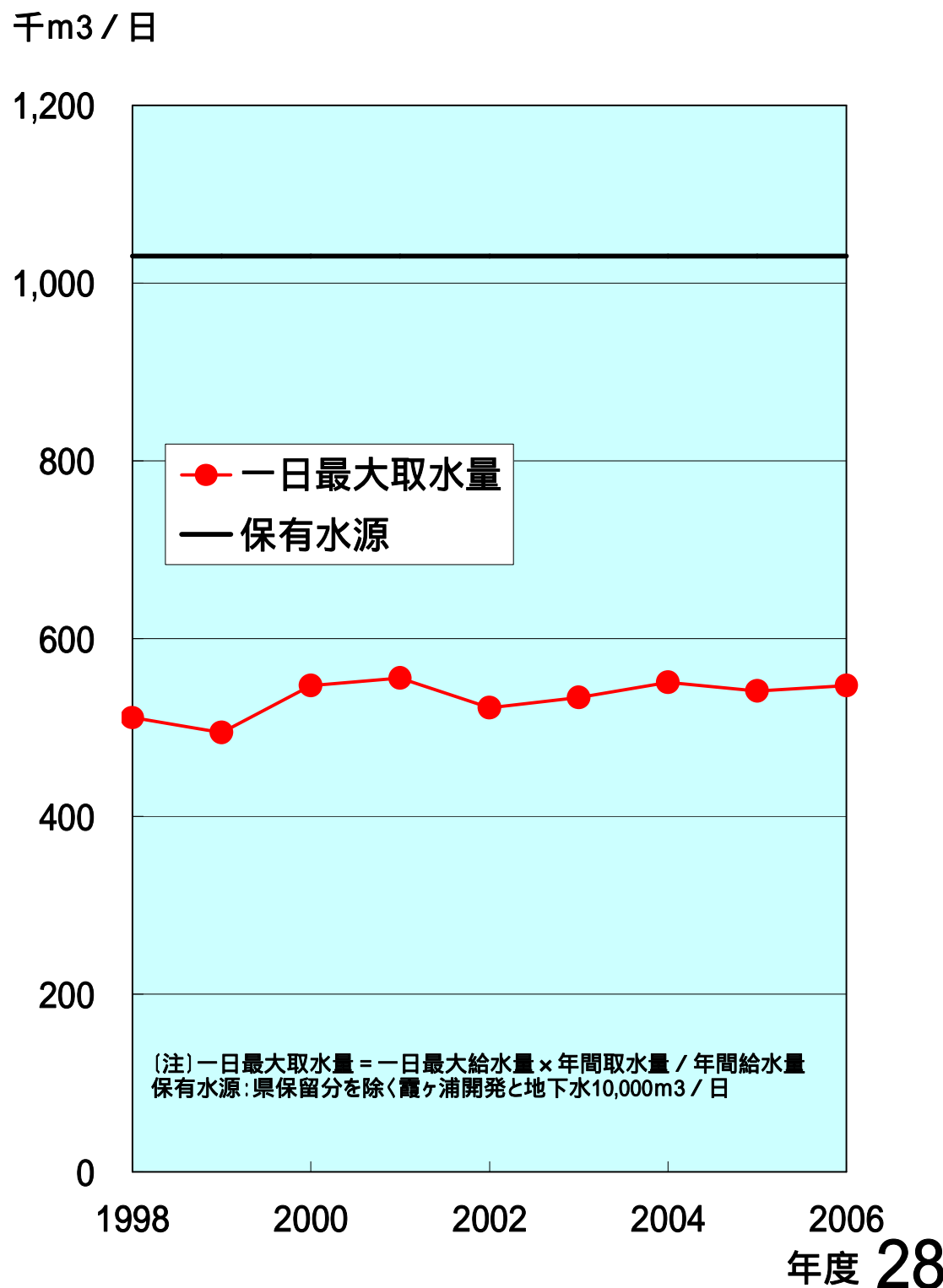
(霞ヶ浦: 西浦平均、利根川: 金江津、那珂川: 勝田橋)

(茨城県と国土交通省のHPより)

# 鹿島地区工業用水道 の水需給

鹿島地区工業用水道は  
余裕水源の一部を水道に  
転用したが、まだ保有水  
源の半分が遊んでいる。

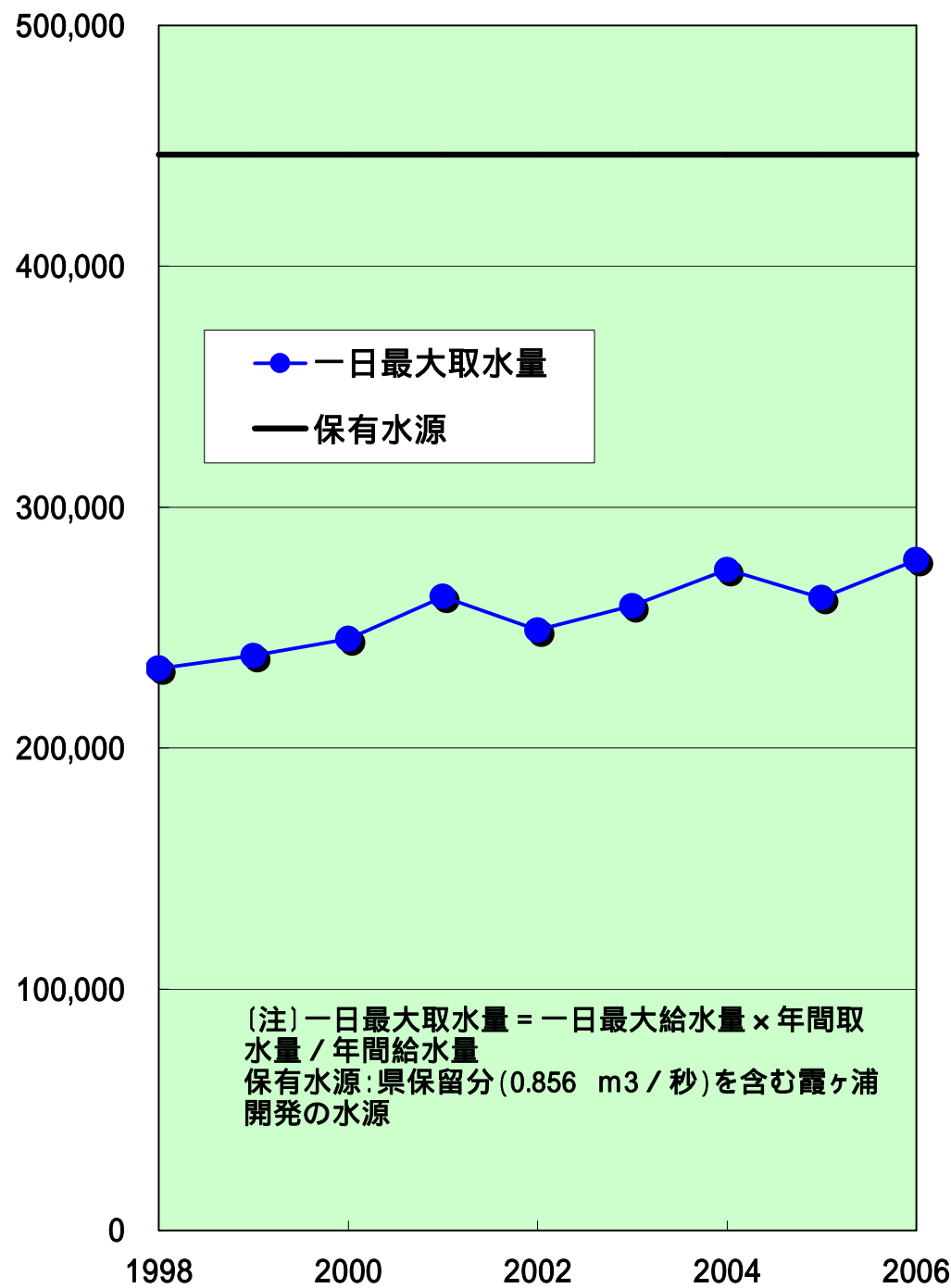
(出典:茨城県の資料)



# 霞ヶ浦から取水している県営広域水道の水需給

保有水源の1/3以上が利用されていない。

m<sup>3</sup> / 日



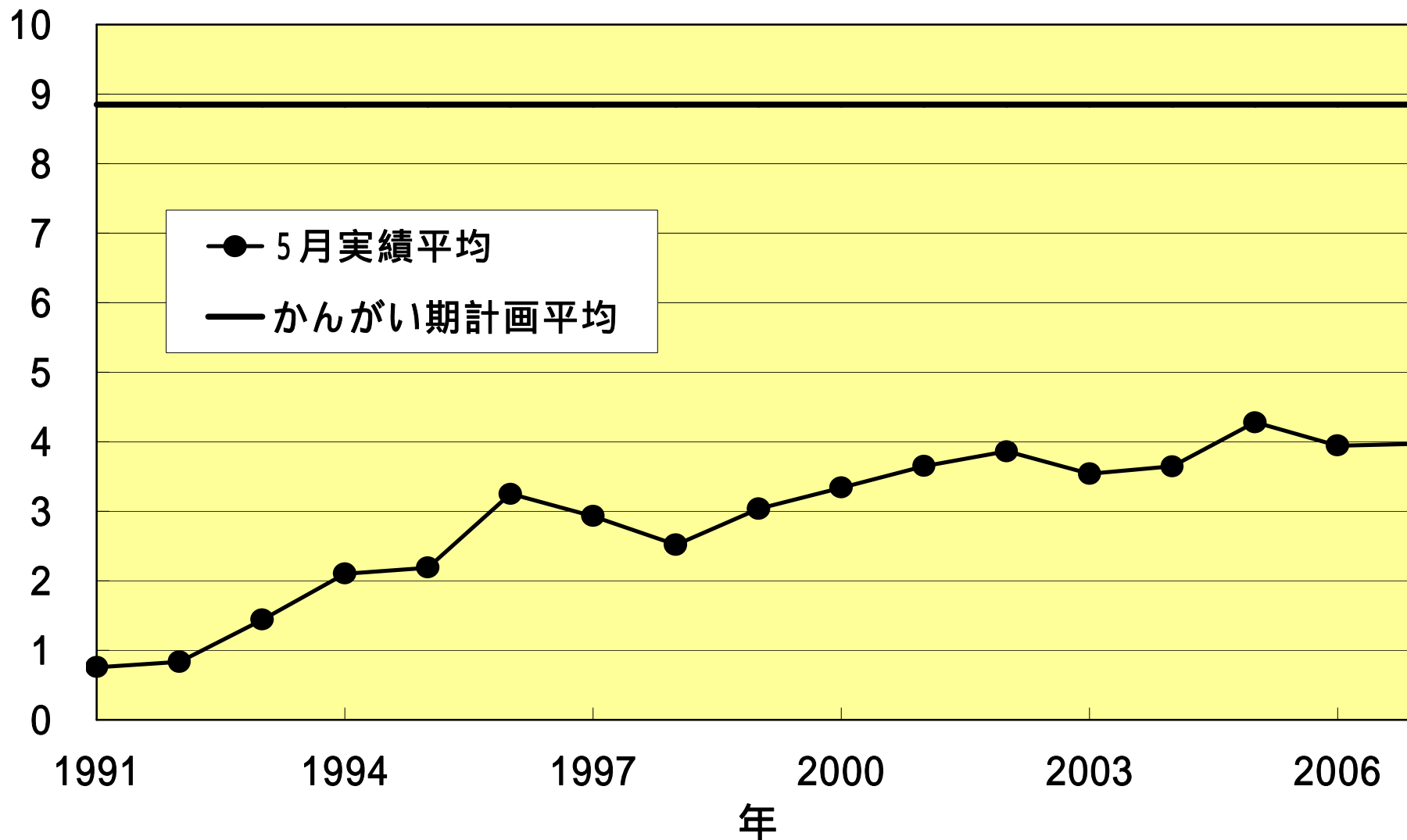
(出典: 茨城県の資料)

年度

# 霞ヶ浦用水(農業用水)の取水量の推移

(出典:水資源機構の資料)

m<sup>3</sup> / 秒

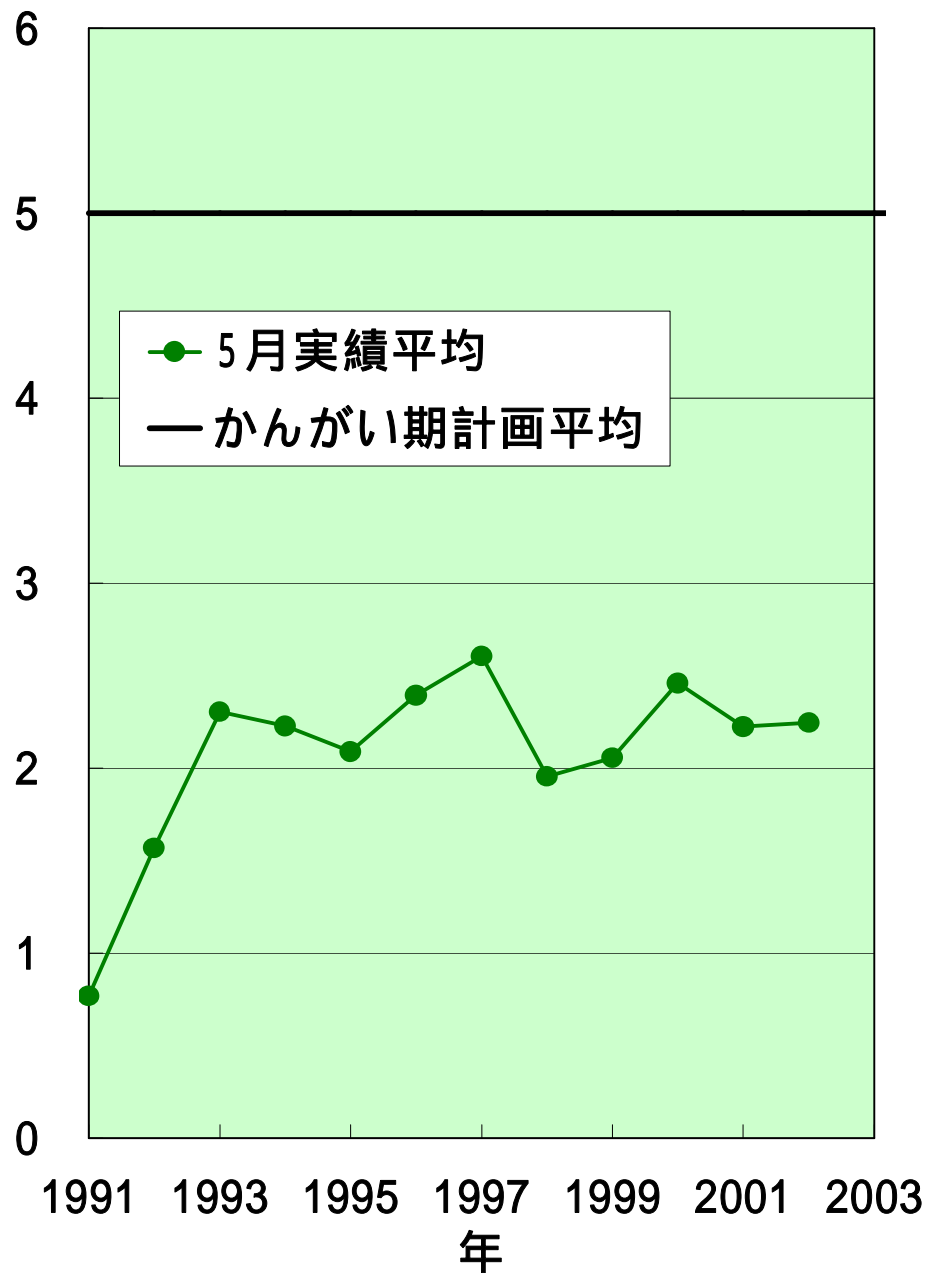


霞ヶ浦用水は保有水源の半分以上が使われていない。

# 石岡台地用水の取水量の推移

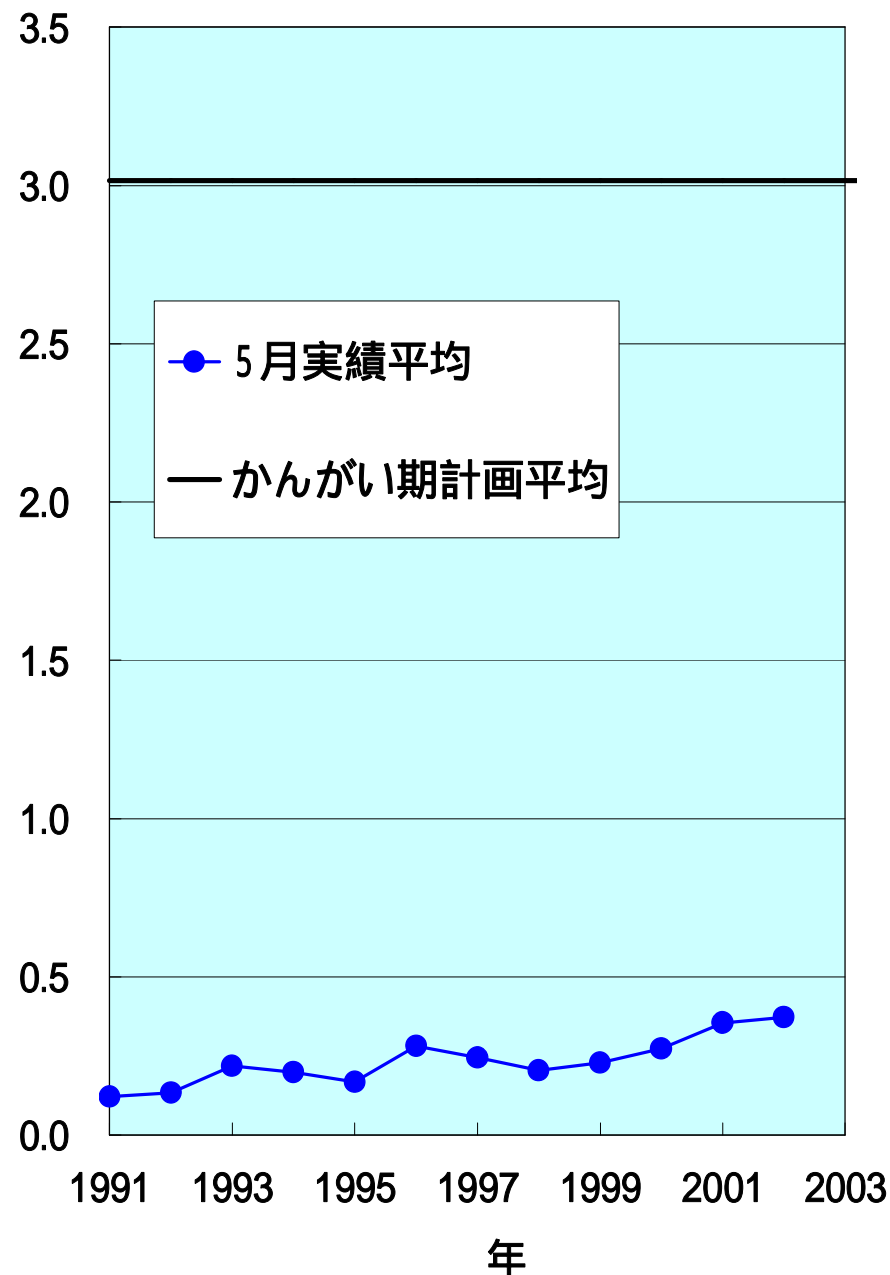
m<sup>3</sup> / 秒

(出典:国土交通省の資料)



# 鹿島南部用水の取水量の推移

m<sup>3</sup> / 秒



石岡台地用水は保有水源の半分以上、鹿島南部用水は8割以上が使われていない。



# 霞ヶ浦開発の利用状況

(単位 m<sup>3</sup>/秒)

			開発水量	現在のおよその利用水量
茨城県	工業用水	鹿島工業用水	13.86	7.2
		県西・県南広域		
	水道用水	鹿行広域	5.24	3.2
		県西・県南広域		
	農業用水	霞ヶ浦用水	8.848	4.3
		石岡台地用水	4.997	2.6
		鹿島南部用水	3.015	0.4
		神之池用水・羽賀沼・小野川	1.266	1.1
小計		37.23	18.8	
東京都、千葉県			5.69	0
合計			42.916	18.8

東京都、千葉県は、利根導水路が「開かずの水門」になっているから、実際の利用状況はゼロ。霞ヶ浦開発の水源全体としては44%しか利用されていない。



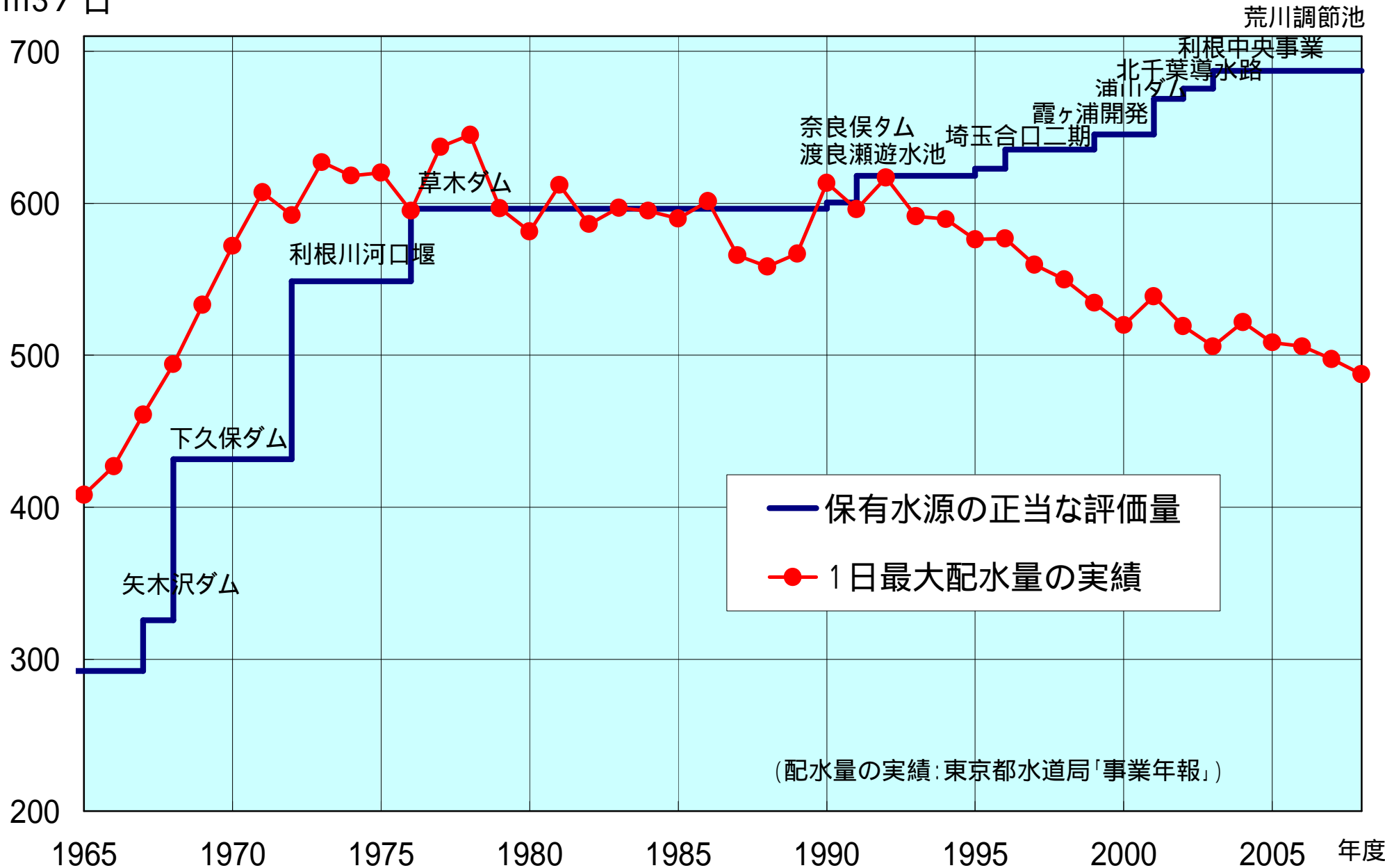
## 水あまりの時代へ

水需要が増加する時代は終わった。  
これからは  
水需要が減少し、水あまりの時代へ

# 東京都水道の水需給

## 減り続ける給水量、増加する保有水源

万m<sup>3</sup>/日

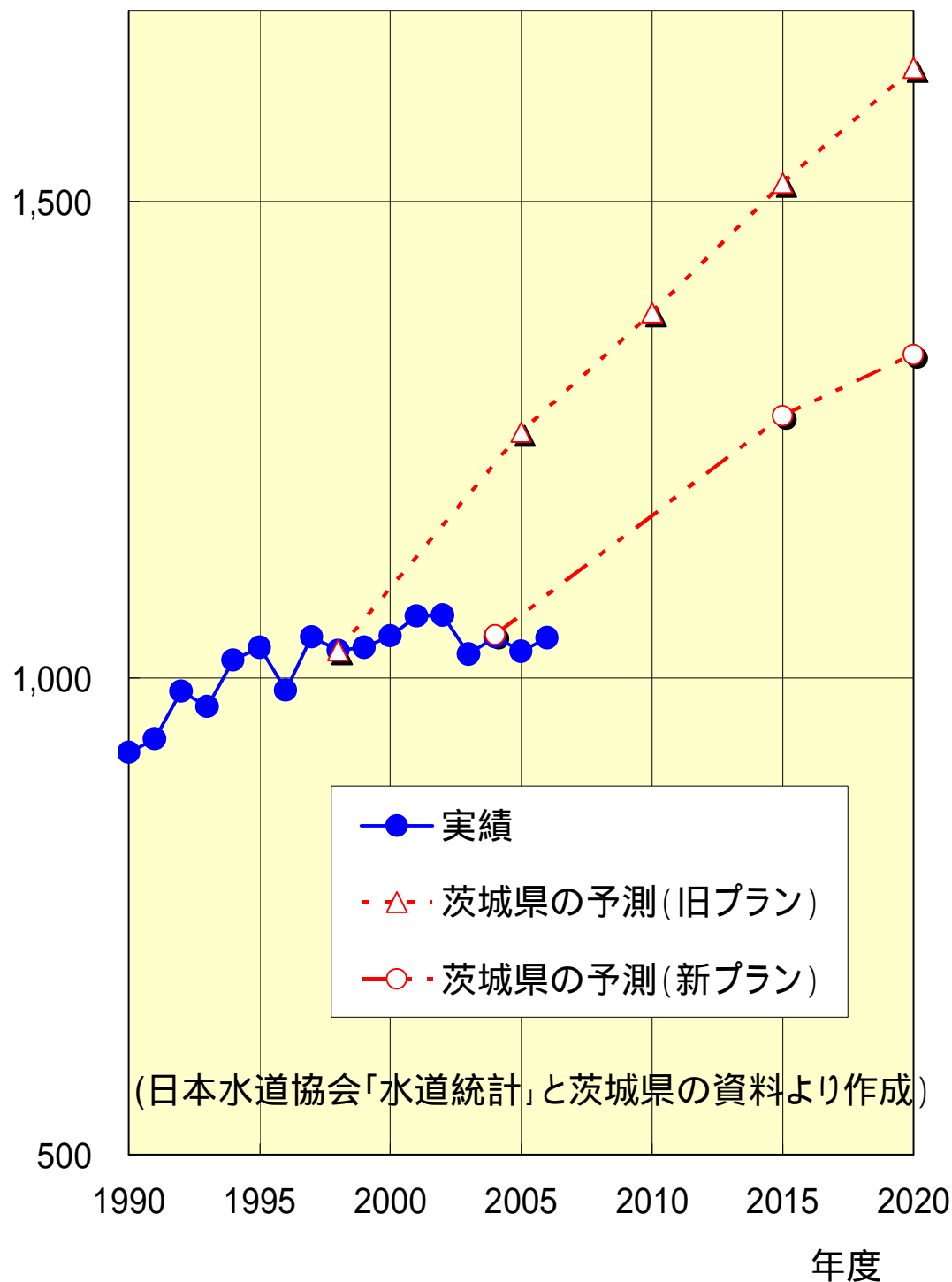


# 茨城県の水道の 実績と予測

## 1日最大給水量

実績が横這い傾向  
になっているのに、  
茨城県は急速な増  
加を予測

千m<sup>3</sup>/日

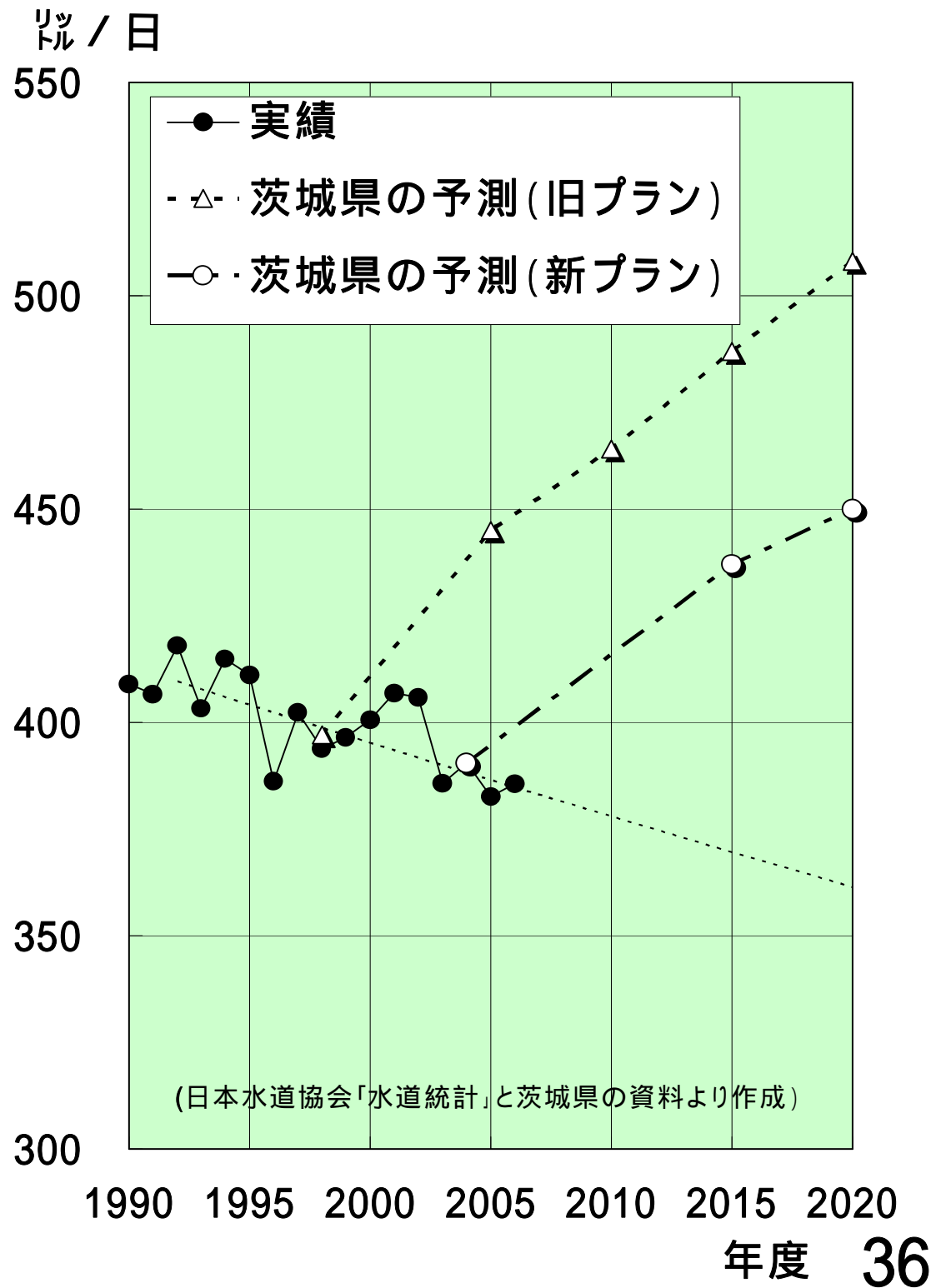


年度

# 茨城県の水道の 実績と予測

## 1人1日最大 給水量

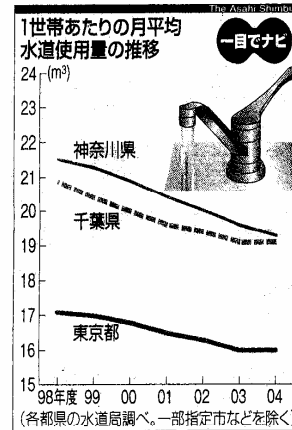
実績が減少傾向に  
なっているのに、茨  
城県は急速な増加  
を予測





首都圏で家庭での水道使用量が減っている。飲み水をペットボトルに頼る人が増えたほか、家電メーカーは洗濯機などで節水を競い合っているからだ。せっかく節水努力をしているのに、神奈川県は4月から家庭用の水道料金を2割弱値上げする。予測に反して水需要が落ち込む中、ダムの水を買う費用(受水費)の負担が重くのしかかるからだという。(井上裕一)

## 自治体の負担重く 神奈川県、2割弱値上げへ



「東京都の水費は、かつては県民に節水をお願いしてきた。水糸りといえ、もつと使って欲しいとも言えないし……」。神奈川県水道局の大山扶美雄・水道企画担当課長は、ため息交じりに話す。

水道高の家庭用の水道料金収入は98年度から04年度までの6年間で14億5千万円も落ち込んだ。東京都と千葉県も落ち込みは同じだ。同じ98年度から04年度までの6年



「節水家電」が続々 飲み水は。ペットボ

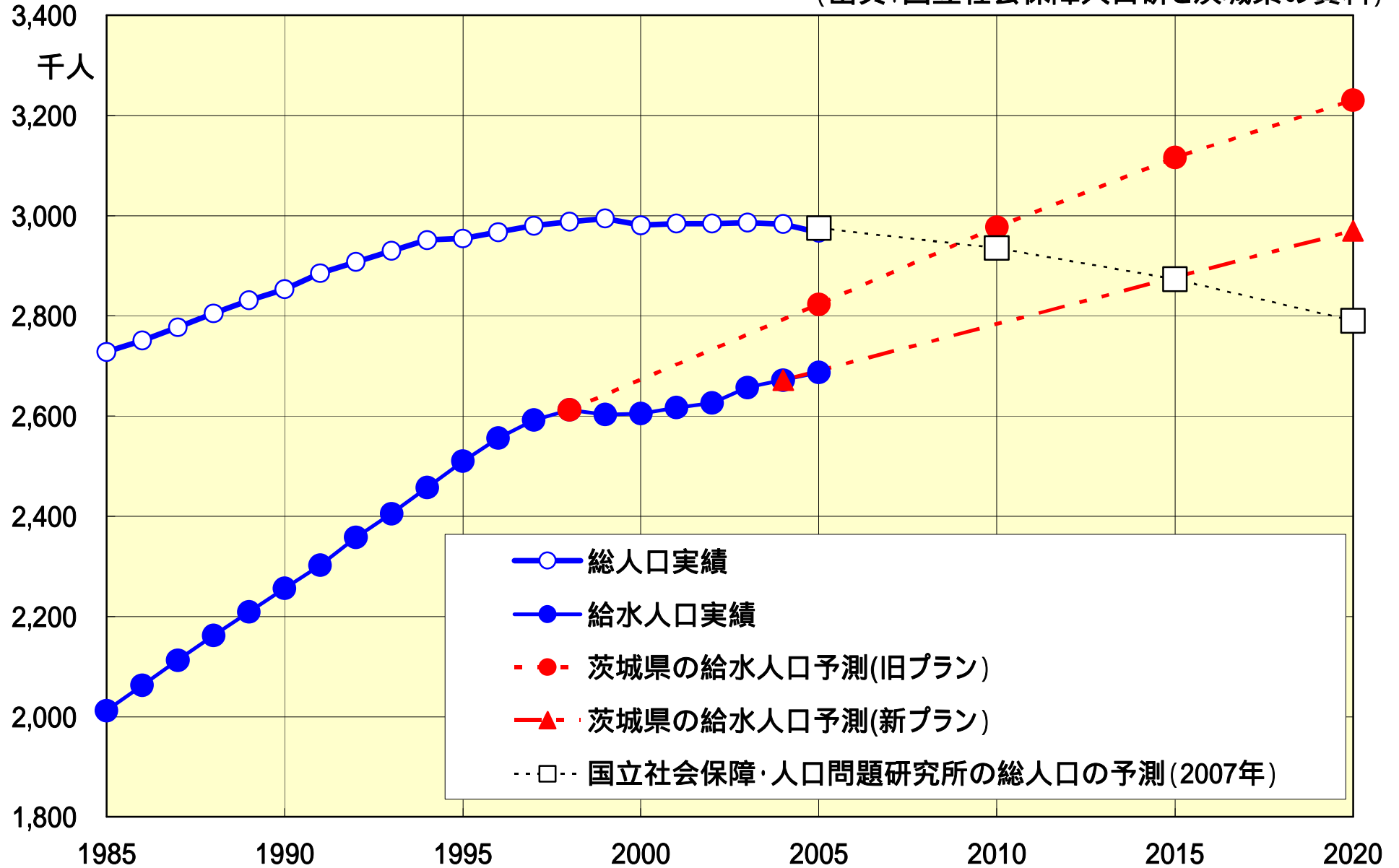
# 減少 家庭の水道使用

無駄なダムのツケが表面化 水道評論家の有田一彦さんの話 水道使用量は

給水量が減り続ける要因  
節水機器の普及  
(水洗トイレ、電気洗濯機、食器洗浄機等)  
② 漏水の減少  
(漏水防止対策の推進)

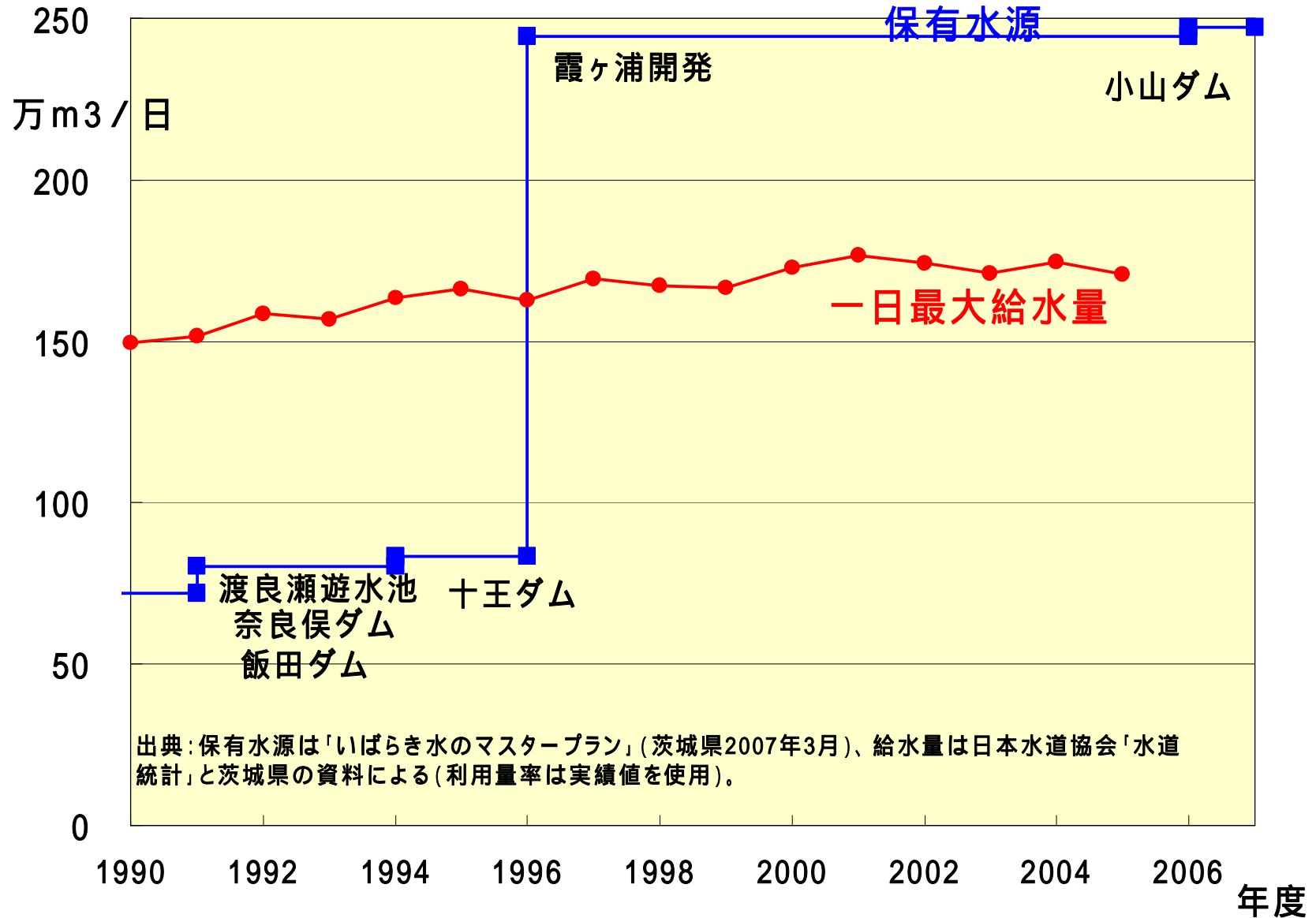
# 茨城県の総人口・給水人口の実績と予測

(出典: 国立社会保障人口研と茨城県の資料)



人口の減少傾向で給水人口も近い将来にピークになり、その後は減少。

# 茨城県の水道 + 県営工業用水道の 給水量と保有水源



# 茨城県の今後の水需給 水あまりの時代へ

- 茨城県の水道用水の需要は人口の減少とともに、減少傾向になる。
- 工業用水道は用水型工業の生産量の飽和状態になっている。
- 農業用水は減反によって増加することはない。



現在の水あまりの状況がさらに顕著になっていくことは必至。



# 霞ヶ浦開発の著しい水余りの状況を踏まえて

## 霞ヶ浦開発事業の徹底見直し

霞ヶ浦開発はどこまで必要であったものか。

霞ヶ浦開発が霞ヶ浦にもたらしたもの

霞ヶ浦開発の影響を緩和する方策の検討

# 四つの水源開発事業と茨城県民の経済負担

## 利根川水系で進められている水源開発事業



ハッ場ダム、湯西川ダム、南摩ダムは利水治水の両面で  
必要性がないだけでなく、多くの災いをもたらす。

貴重で豊かな自然の喪失

美しい渓谷の喪失

貴重生物の生息が困難に

水質の悪化

ダム湖での植物プランクトンの異常増殖

災害誘発の危険性(ハッ場ダム)

貯水池周辺における地すべりの発生

ダムサイト岩盤の崩壊の危険性

# 霞ヶ浦導水事業は虚構の事業

## 霞ヶ浦導水事業の目的と現実

### 都市用水の開発

水余りの状況になっているので、必要性がない。

### 那珂川と利根川への湯水補給(既得用水等への補給)

汚れた霞ヶ浦の水を利根川や那珂川に導水することは無理。  
実際に、利根導水路は開かずの水門になっている。

### 那珂川と利根川からの導水による霞ヶ浦の水質浄化

机上の計算によるもので、むしろ霞ヶ浦の水質を悪化させる  
要因になる。

# 四つの水源開発事業

	河川	事業者	目的	総貯水容量(万 m3)	移転予定の 世帯数
ハッ場ダム	吾妻川	国交省	都市用水、 洪水調節	10,750	470
南摩ダム (思川開発)	思川系南摩川	水資源機構	都市用水、 洪水調節	5,100	80
湯西川ダム	鬼怒川系 湯西川	国交省	都市用水、 洪水調節	7,500	138
霞ヶ浦導水事 業	霞ヶ浦・利根川・那 珂川	国交省	都市用水、 湯水補給、 水質浄化	---	---

完成予定年度 湯西川ダム 2011年度

ハッ場ダム、思川開発、霞ヶ浦導水は2015年度へ延期

# 四水源開発事業の都県別の参画水量

茨城県は四つの水源開発のいずれにも参加

水道

(m<sup>3</sup>/秒)

	ハッ場ダム	思川開発	湯西川ダム	霞ヶ浦導水事業
群馬県	0.25 (2.00)	---	---	---
栃木県	---	1.040	0.300	---
<b>茨城県</b>	<b>1.090</b>	<b>0.686</b>	<b>0.218</b>	<b>3.626</b>
埼玉県	0.67 (9.25)	(1.163)	---	0.940
千葉県	0.99 (0.47)	0.313	1.510	1.260
東京都	5.22 (0.559)	---	---	1.400
計	9.11 (12.279)	2.039	2.028	7.226

工業用水道

(m<sup>3</sup>/秒)

	ハッ場ダム	思川開発	湯西川ダム	霞ヶ浦導水事業
群馬県	(0.35)	---	---	---
<b>茨城県</b>	<b>---</b>	<b>---</b>	<b>---</b>	<b>1.574</b>
千葉県	0.470	---	0.190	0.400
計	0.47 (0.35)	---	0.190	1.974

(注) ( )は冬季手当の水量を示す。

# 4事業の事業費と茨城県の負担額

関連事業(水特法事業と基金事業)も含めると

単位 億円

		ハッ場 ダム	思川 開発	湯西川 ダム	霞ヶ浦 導水	4事業 の計
総事業費	建設事業	4,600	1,850	1,840	1,900	10,190
	水特法事業	997	143	257	---	1,397
	基金事業	249	108	50	---	407
	計	5,846	2,101	2,147	1,900	11,994
茨城県の 負担額	建設事業	219	100	208	595	1,122
	水特法事業	26	13	57	---	96
	基金事業	17	26	11	---	54
	計	262	139	276	595	1,272

起債の利息も加算すると、茨城県民の総負担額は

1,272億円 × 1.5 = 約1,900億円

# 4事業に対する一人当たりの負担額 (関連事業を含めた総事業費に対して)

	負担額(億円)					人口 (千人) (2006年10月)	一人当たり負 担額 (円)
	ハッ場ダ ム	思川開 発	湯西川ダ ム	霞ヶ浦 導水	計		
群馬県	234	---	---	---	234	2,021	11,578
栃木県	10	297	189	---	496	2,015	24,634
<b>茨城県</b>	<b>262</b>	<b>139</b>	<b>276</b>	<b>595</b>	<b>1,272</b>	<b>2,972</b>	<b>42,806</b>
埼玉県	804	177	---	33	1,014	7,071	14,339
千葉県	505	174	535	114	1,327	6,074	21,848
東京都	850	105	---	66	1,021	12,659	8,062
6都県	2,545	1,011	1,000	808	5,364	32,812	16,348

起債の利息も加算すると、茨城県民の一人当たり負担額は  
 $42.806円 \times 1.5 = 約64,000円$



# 4事業に対する一人当たりの負担額 (建設事業に対する水道分の負担)

	負担額(億円)					人口 (千人) (2006年10月)	一人当たり負 担額(円)
	ハッ場ダ ム	思川開 発	湯西川ダ ム	霞ヶ浦導 水	計		
群馬県	61	---	---	---	61	2,021	3,018
栃木県	---	110	62	---	172	2,015	8,536
茨城県	95	75	97	235	502	2,972	16,891
埼玉県	389	96	---	33	518	7,071	7,326
千葉県	178	34	227	60	499	6,074	8,214
東京都	472	---	---	66	538	12,659	4,252
6都県	1,175	335	386	394	2,290	32,812	6,980

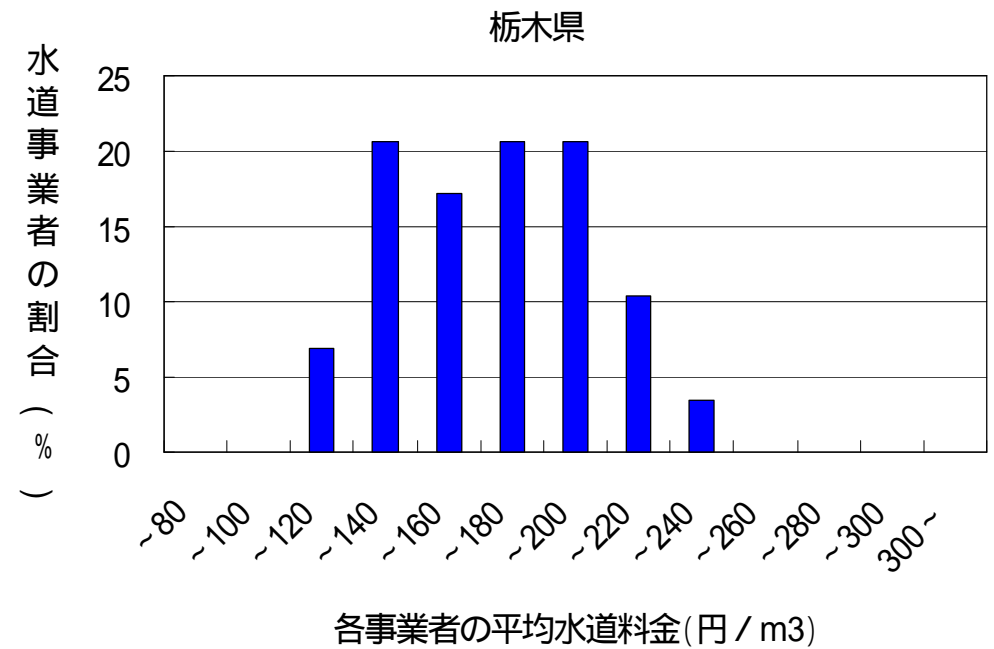
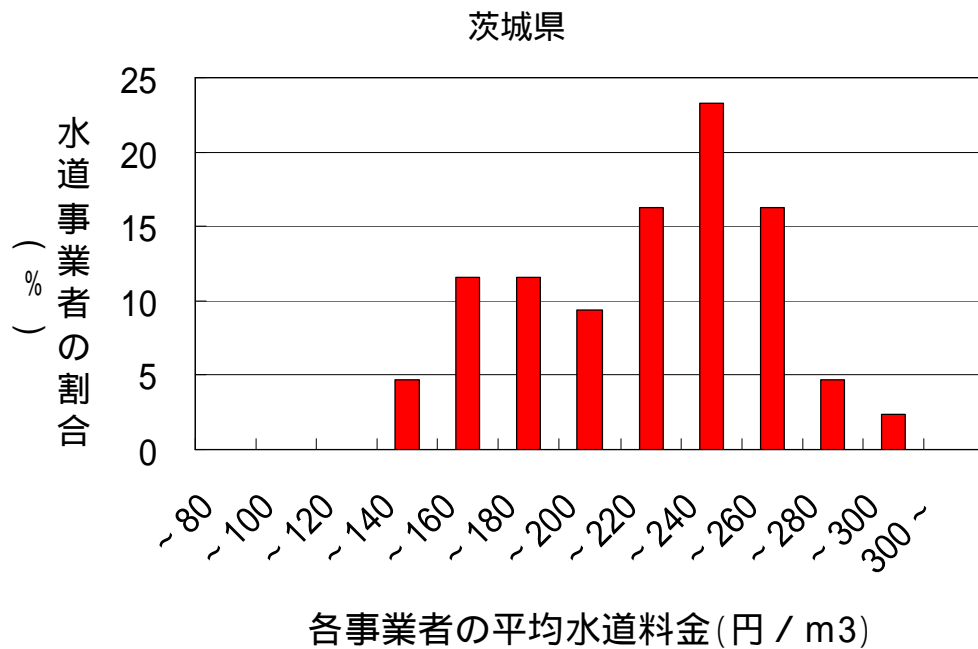
起債の利息も加算すると、茨城県民の一人当たり負担額は

$$16,891円 \times 1.5 = \text{約}25,000円$$

# 4事業に対する茨城県民の負担

- 総負担額(起債利息を含む)  
県民一人あたり 64,000円
- 水道料金としての負担額  
県民一人あたり 25,000円
- 残りの39,000円は  
県民税などとして負担

# 6都県の各水道事業者の水道料金



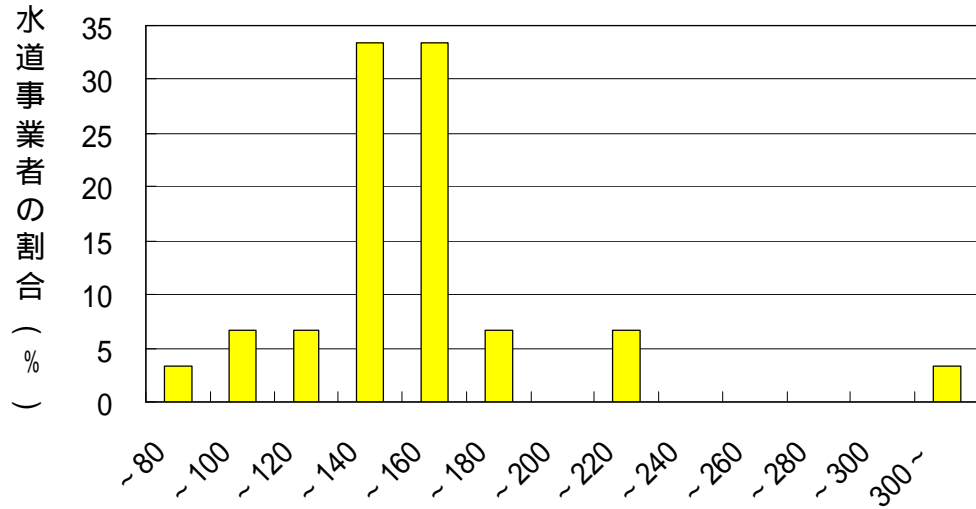
茨城県内の水道は水道料金がかかなり高いところが多い。

平均水道料金 = 供給単価

( 地方財務協会「平成18年度地方公営企業年鑑」より)

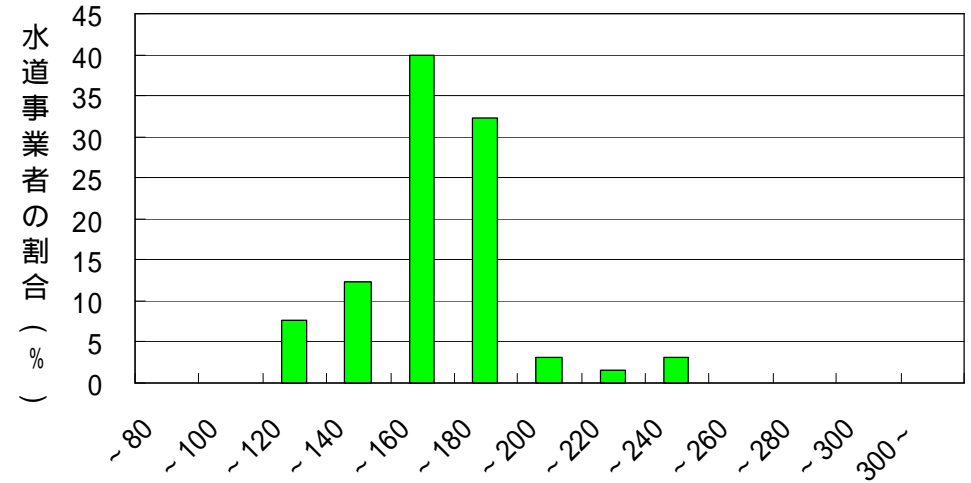
# 6都県の各水道事業者の水道料金

群馬県



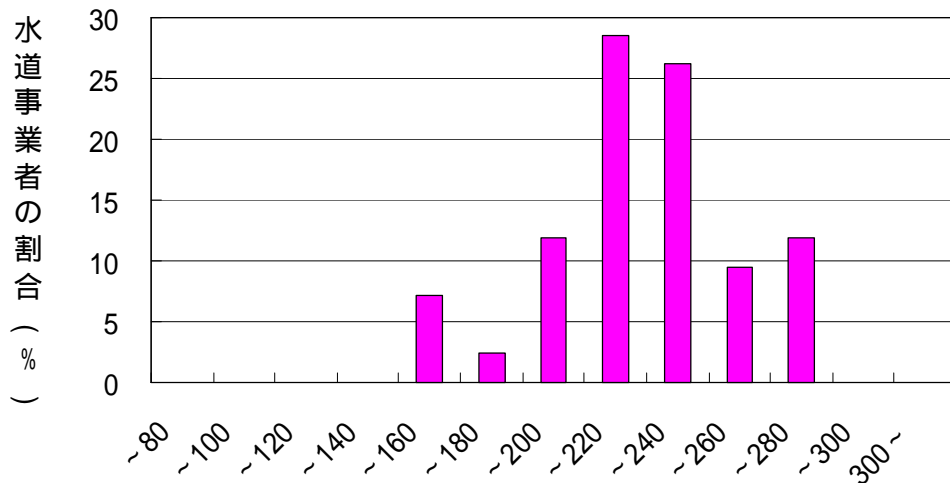
各事業者の平均水道料金 (円 / m<sup>3</sup>)

埼玉県



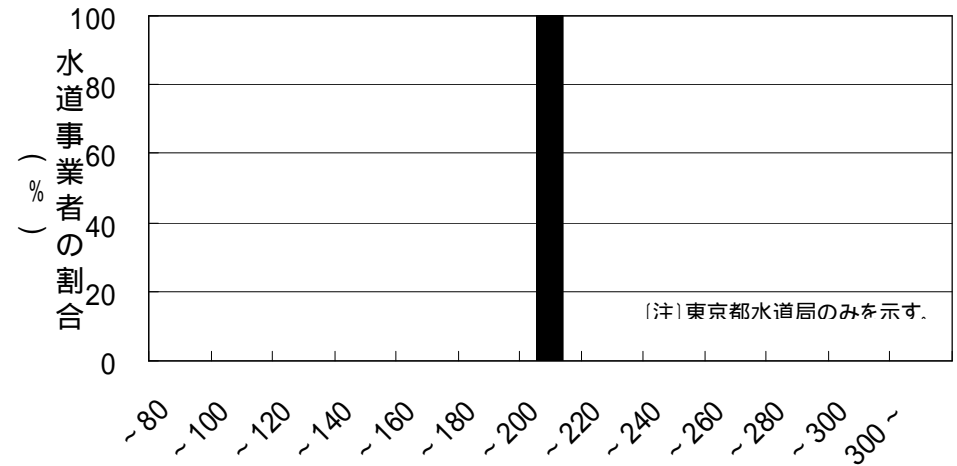
各事業者の平均水道料金 (円 / m<sup>3</sup>)

千葉県



各事業者の平均水道料金 (円 / m<sup>3</sup>)

東京都

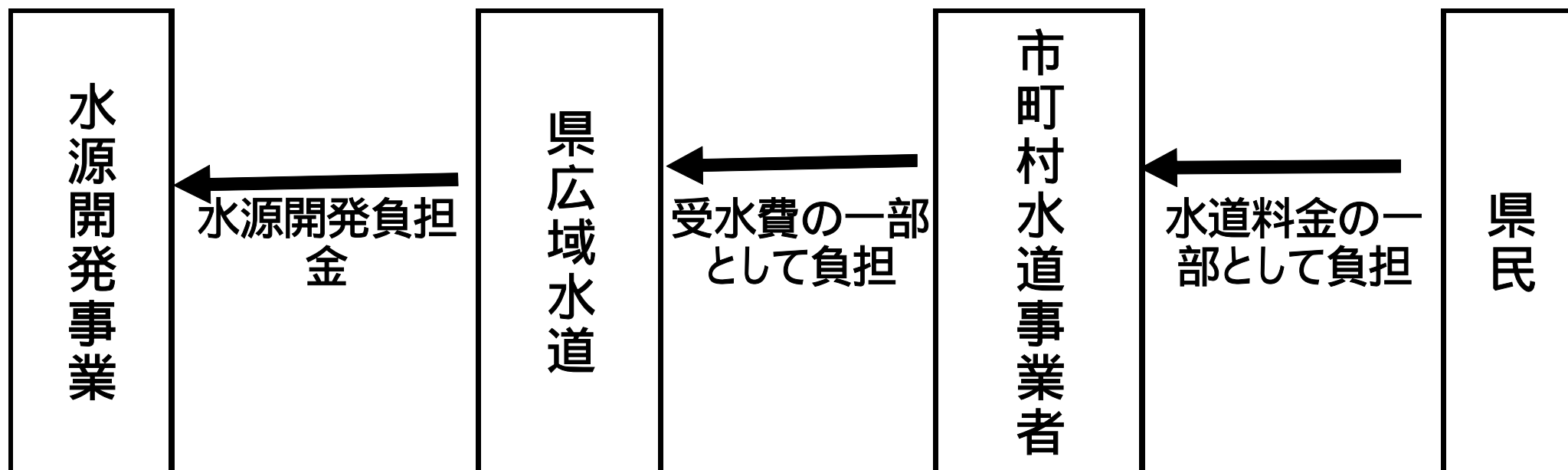


各事業者の平均水道料金 (円 / m<sup>3</sup>)

[注]東京都水道局のみを示す。

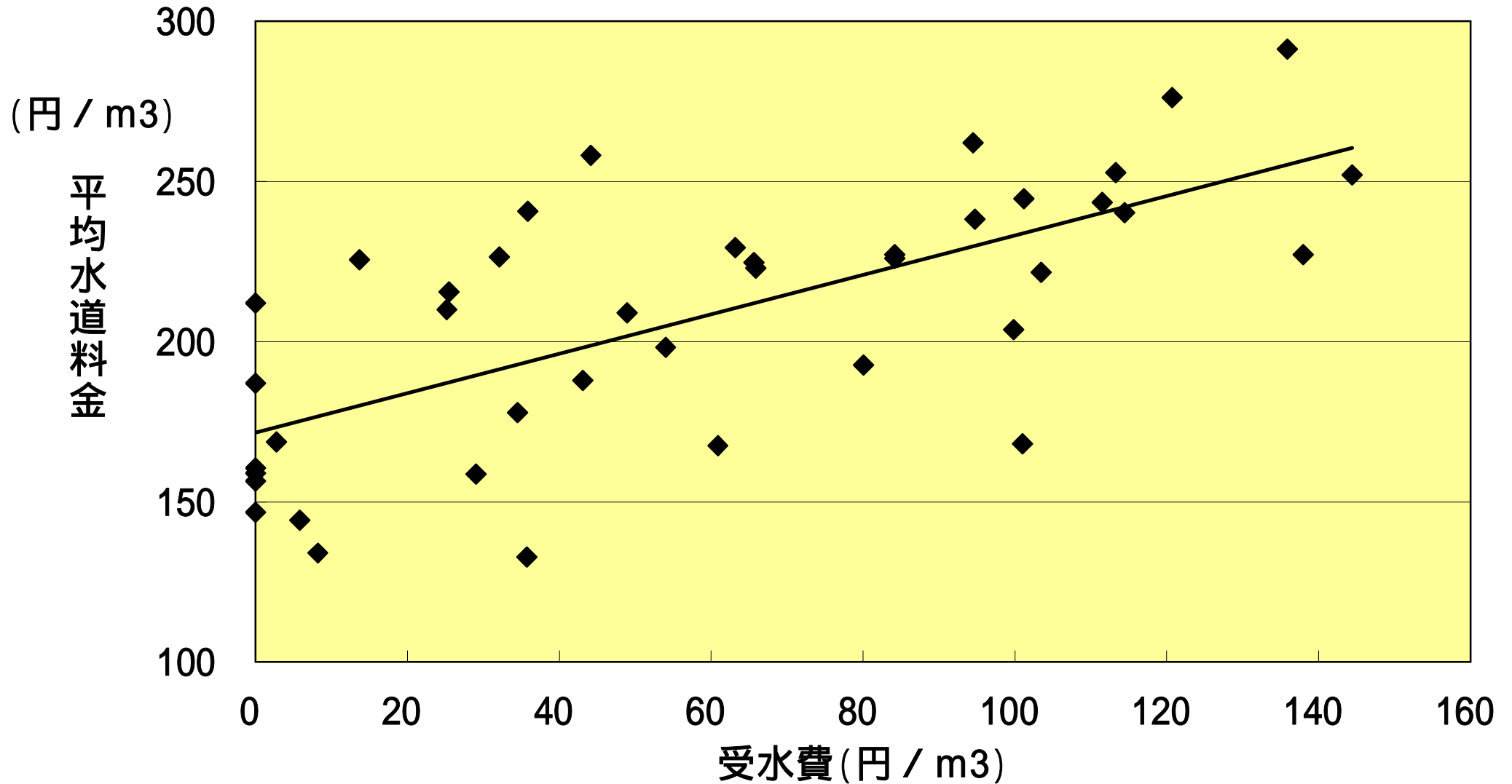
# 茨城県では水道料金が高い水道事業者が多い理由は？

水道施設の建設時期など、水道料金に影響する要素はいくつかあるが、四水源開発事業に対する1人当たりの負担額が他の都県と比べてダントツに大きいことも影響している。



# 茨城県の各水道の受水費と平均水道料金の関係

(平成18年度地方公営企業年鑑)



茨城県の水道料金を高くしている一要因は、県広域水道の受水費である。受水費に水源開発の負担金が含まれている。

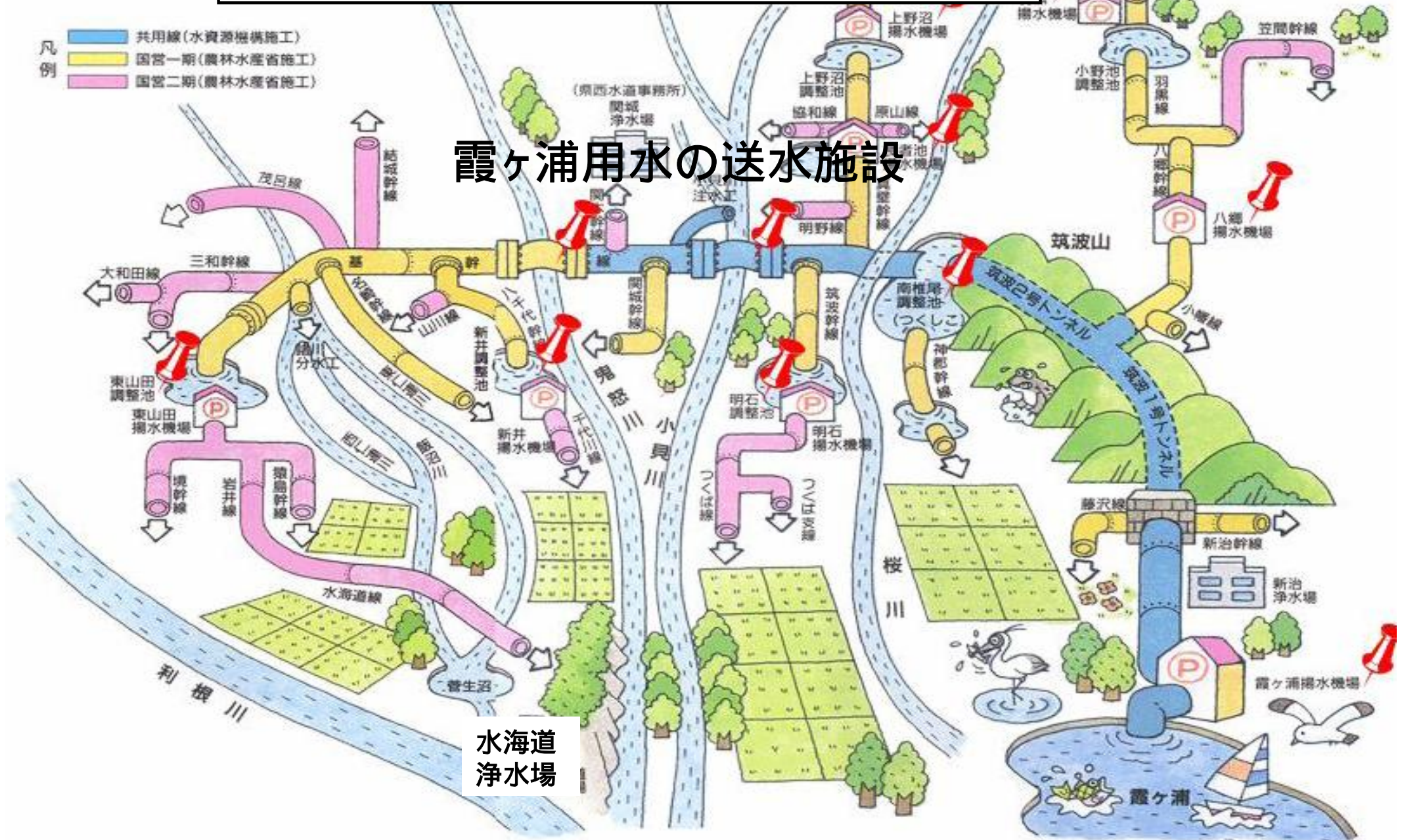
## 茨城県の水行政が進むべき道

- 1 必要性がなく、県民に多額の経済負担を強いるハツ場ダム、湯西川ダム、南摩ダム、霞ヶ浦導水事業から撤退する。
- 2 霞ヶ浦開発の著しい水余りの状況を踏まえて、同事業の徹底見直しを行い、霞ヶ浦開発の影響を緩和する方策を進める。



【補足1】

霞ヶ浦用水の送水施設を使えば、霞ヶ浦開発の  
余剰水源を利根川系浄水場への送水が可能。



水海道  
浄水場

利根川  
浄水場



## 那珂川の利水は余裕がある

那珂川における1987年以降の渇水(出典:国土交通省の資料)

1987年 5月1～4日、6～14日 (12日間)

1993年 4月23日～5月3日 (11日間)

1994年 4月28日～5月6日 (8日間)

1996年 4月28日～5月2日 (5日間)

2001年 4月27日～5月9日 (13日間)

いずれも渇水の期間が短く、4月末からの5月連休の期間における田植え時の一斉取水が原因。

他の水系で起きることがある夏期の渇水は那珂川では起きていないし、最近は減反により、田植え時の一時的な渇水も起きなくなっており、那珂川の利水には余裕がある。



那珂川での県営広域水道・工業用水道の不足分(0.5m<sup>3</sup>/秒程度)を取水することは容易。